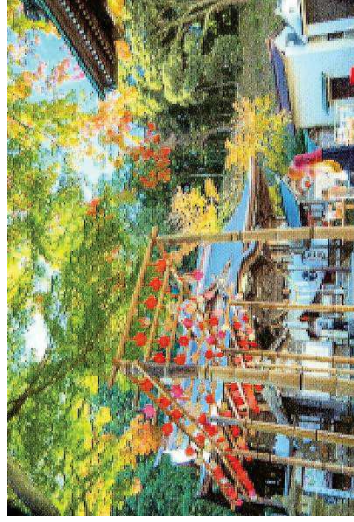




新・いわき湯本温泉 まちなみづくりサポートブック

2023年9月

【素案】



1

まちなみづくり
サポートブックとは ——— 03

- いわき湯本温泉の現状や新たなまなみづくりの内容、サポートブックの目的や使い方を紹介します。

【1-1】 まちなみの大切さ	04
【1-2】 いわき湯本温泉の現状	04
【1-3】 新たないわき湯本温泉に向けて	04
【1-4】 サポートブックの目的	05
【1-5】 対象の区域	05
【1-6】 サポートブックの使い方	06

2

いわき湯本温泉の目指す姿 — 07

- いわき湯本温泉におけるまちなみづくりの方向性や、地区ごとのまちなみのイメージをまとめています。

【2-1】 まちなみづくりの方向性	08
【2-2】 まちなみづくりの3つのキーポイント	08
【2-3】 地区のイメージ	10

3

まちなみのつくり方 ——— 19

- いわき湯本温泉の目指す姿を実現するための、考え方・工夫・アイデア等を紹介します。

【3-1】 おもてなしの考え方/工夫・アイデア	20
【3-2】 建物(店構え等)の考え方/工夫・アイデア	22
【3-3】 サイン・屋外広告物の考え方/工夫・アイデア	24
【3-4】 小道具の考え方/工夫・アイデア	26
【3-5】 照明・灯りの考え方/工夫・アイデア	28
【3-6】 みどりの考え方/工夫・アイデア	30
【3-7】 舗装の考え方/工夫・アイデア	31
【3-8】 まちなみづくりのルール	32

4

目指す姿の実現に向けて ——— 35

- いわき湯本温泉の目指す姿を実現するための、制度と支援する仕組みをまとめています。

【4-1】 まちなみづくりを実現する制度	36
【4-2】 まちなみづくりを支援する仕組み	37

5

資料編 ——— 39

- 本書を作成するにあたって、地域ワークショップ・検討会で用いた資料をまとめています。

1 まちなみづくりサポーターブックとは

【1-4】サポートブックの目的

新・いわき湯本温泉のビジョンの実現や魅力的なまちなみは、様々な人が関わりながら、長い時間をかけて、少しずつつくりあげていくものです。

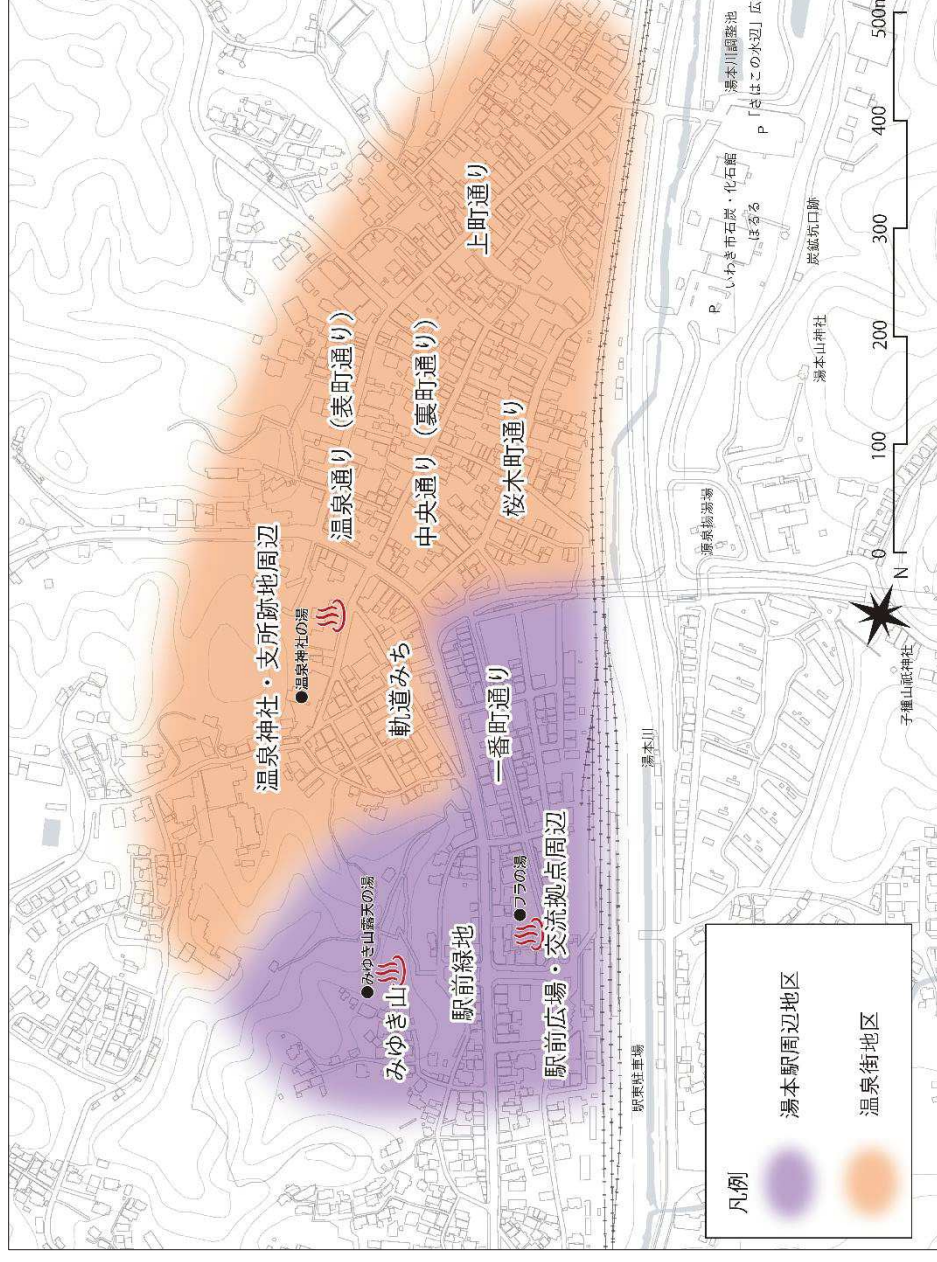
そのためには、**いわき湯本温泉の目指す姿や、具体的なまちなみのつくり方を、みんなで共有できること**が大切です。

そんな新たなまちなみづくりの参考となるのが、**『新・いわき湯本温泉 まちなみづくりサポートブック』**です。
(※以後、サポートブック)

多くの人がサポートブックを手にとって、できることから実施していく動きがたくさん生まれることを期待しています。

【1-5】対象の区域

本サポートブックでは、対象の区域を、【湯本駅周辺地区】と【温泉街地区】の2つとします。



▲対象の区域図

【1-6】サポートブックの使い方

① いわき湯本温泉の目指す姿 について想像してみよう

いわき湯本温泉のまちなみ調査、
ワークショップや検討会での
地域の方々の声をもとに、
いわき湯本温泉の目指す姿を描きました。

本書で描かれたイメージをみながら、
ご自身の理想とするまちなみについて、
ご家族やご友人と語り合い、想像してみましょう。

まちを想い、想像していくことが、
まちなみづくりの第一歩です。

⇒P.07「2.いわき湯本温泉の目指す姿」へ

② 気軽にできる 小さなことから始めてみよう

いわき湯本温泉の目指す姿を
実現するための工夫やアイデアが、
要素ごとにまとめてあります。

サポートブックをみながら、
お庭の植物や玄関の照明を変えてみたり、
店先にベンチを置いてみたり、
小さなことから始めてみましょう。

一人ひとりの小さな行動の積み重ねが、
まちなみを少しずつ魅力的に変えていきます。

⇒P.19「3.まちなみのづくり方」へ

③ 建替え/修繕/出店等の タイミングで実践してみよう

ご自宅や店舗の建替え・修繕、
公共工事に係る計画・設計・施工の際には、
設計・施工者と一緒に、
サポートブックを広げながら、
計画等を進めていきましょう。

まちなみづくりを
サポートする仕組みもあるので、
積極的に活用していきましょう。

⇒P.19「3.まちなみのづくり方」へ
⇒P.35「4.目指す姿の実現に向けて」へ

※「新・いわき湯本温泉まちづくりビジョンブック」と併せてお読みいただくことをおすすめします。

2 いわき湯本温泉の目指す姿

【2-1】まちなみづくりの方向性

新しいまちなみづくりに合わせ、様々なコンテンツが生まれてきます。

それぞれのコンテンツが一つで終わらないように、まち全体を俯瞰して、つながりを持たせることが大切です。

次のページの

「まちなみづくりの全体方針図」では、

まち全体の回遊とにぎわいを生み出すための、

各地区が目指す方向性や

地区内外のつながりを示してあります。

【2-2】まちなみづくりの3つのキーポイント

いわき湯本温泉のまちなみについて、新しいまちづくりの検討では、『**温泉感・歴史感・フラ感**』の3つのキーポイントが挙げられました。

この特徴的な3つのキーポイントの組合せが、

いわき湯本温泉らしい魅力的なまちなみづくりにつながるのではないのでしょうか？

新しいまちなみづくりのイメージを地域の人に聞いてみたところ、**湯本駅前周辺地区**と**温泉街地区**の2つでは、**目指すべき特徴が大きく分かれました**。

湯本駅前周辺地区では『温泉感とフラ感』を中心としたまちなみづくり、「温泉感と歴史感」を中心としたまちなみづくりという雰囲気、いわき湯本温泉の魅力を際立たせると考えられます。

湯本駅前周辺地区

地域WSでの意見やアイディア

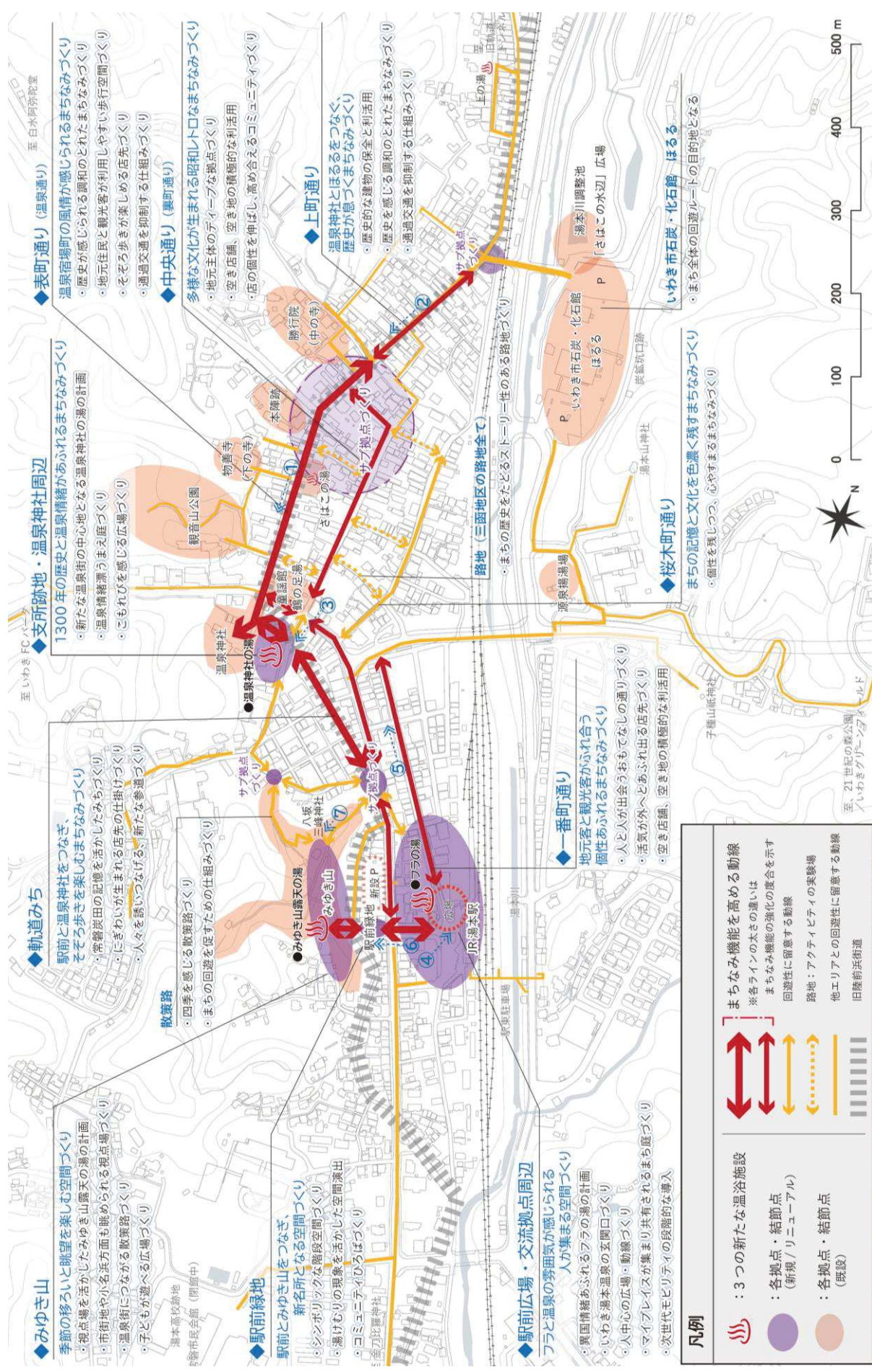
- ・駅前でイベント
- ・フラミュージック、アロハシャツ
- ・異国情緒を感じる植物
- ・駅前からみゆき山に続く温泉水路
- ・駅から出たら温泉の香り

温泉街地区

- ・歴史的な建物、古建築
- ・文人墨客にまつわる歴史
- ・温泉や炭坑にかかるモニュメント
- ・浴衣や下駄をはいた観光客
- ・湯けむり、硫黄の香り

3つのキーポイントの組合せ





▲まちなみづくりの全体方針図

【2-3】地区のイメージ

いわき湯本温泉の目指す姿を空から眺めてみましょう。

点が線としてつながり、線が面として広がる、
そんなまちなみ全体の青写真です。

全体鳥瞰イメージのあとのページでは、通りや
エリア毎に、まちなみのつくり方の工夫やアイ
デアを組み合わせた将来スケッチを紹介して
います。

東北一の温泉地を目指して、まだまだ続く長
い取り組みの中、もしも迷うことがあれば、こ
れらのイメージなどを見返してください。

■新・いわき湯本温泉の全体鳥瞰イメージ



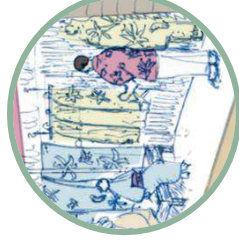


※一部現時点にて検討中の箇所があります

まちなみの構成要素

まちなみのイメージは、いろいろな構成要素の積み重ねによって形づくられます。

次のページから、各地区の具体的なイメージとともに、それを形づくる構成要素をご紹介しますので、一つ一つ確認してみましょう！！



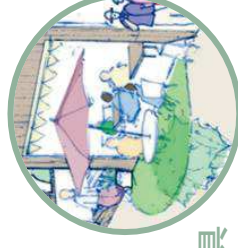
おもてなし



建物(店構え)



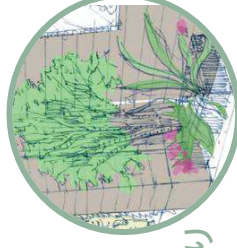
サイン・
屋外広告物



小道具



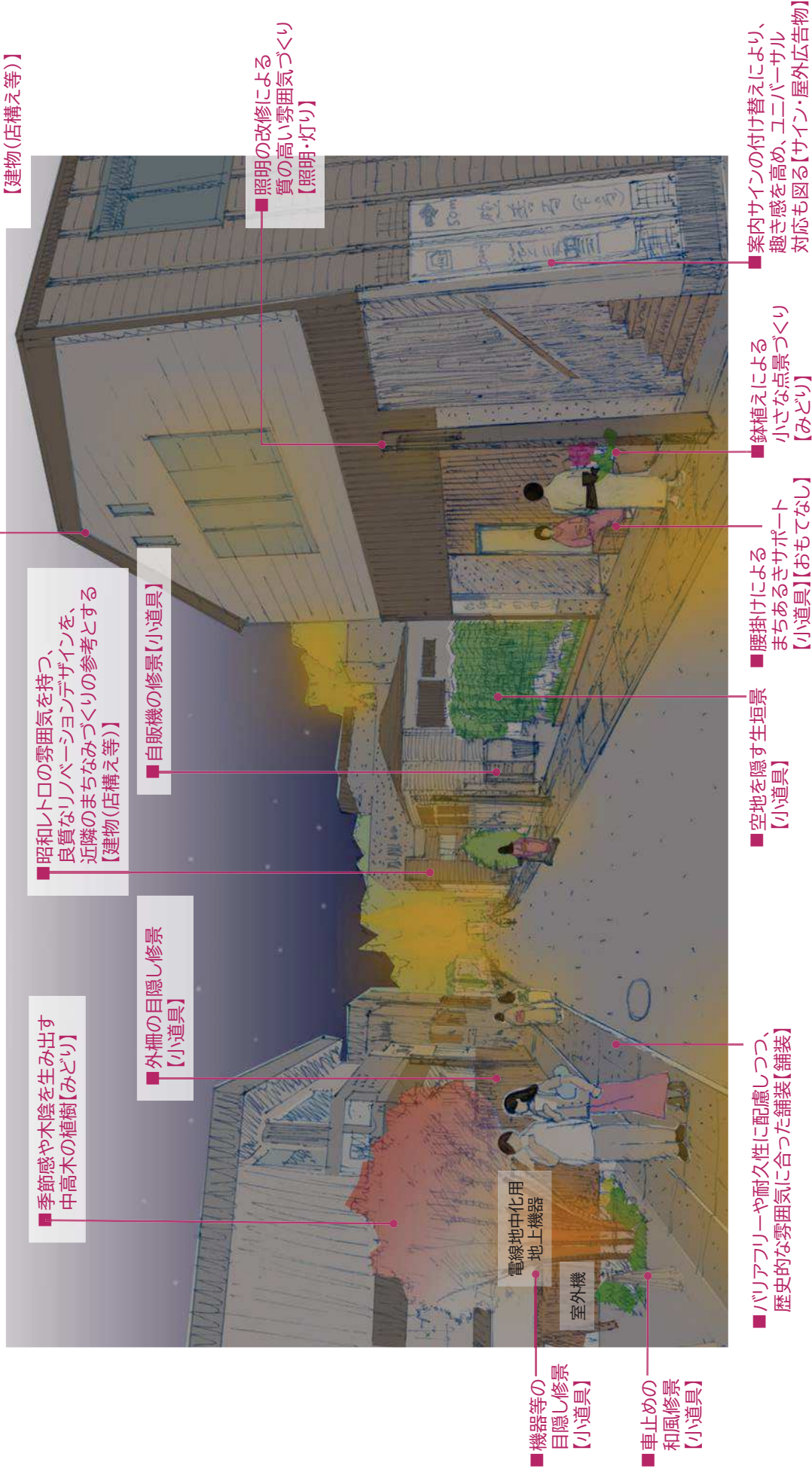
照明・灯り



みどり

① 温泉街周辺のまちなみづくり 表町通り(温泉通り)付近

いわき湯本の魅力である、**旧陸前浜街道の歴史の趣きと昭和レトロの面影**を引き立たせることは、湯本らしさを高め、通り歩き満足度向上に繋がります。
 そのために、**見せるものと隠すもの**を上手に見極めつつ、**歴史風情や質感が感じられるまちなみ**を創り出すための、様々な工夫やアイデアを組合せてみましょう。

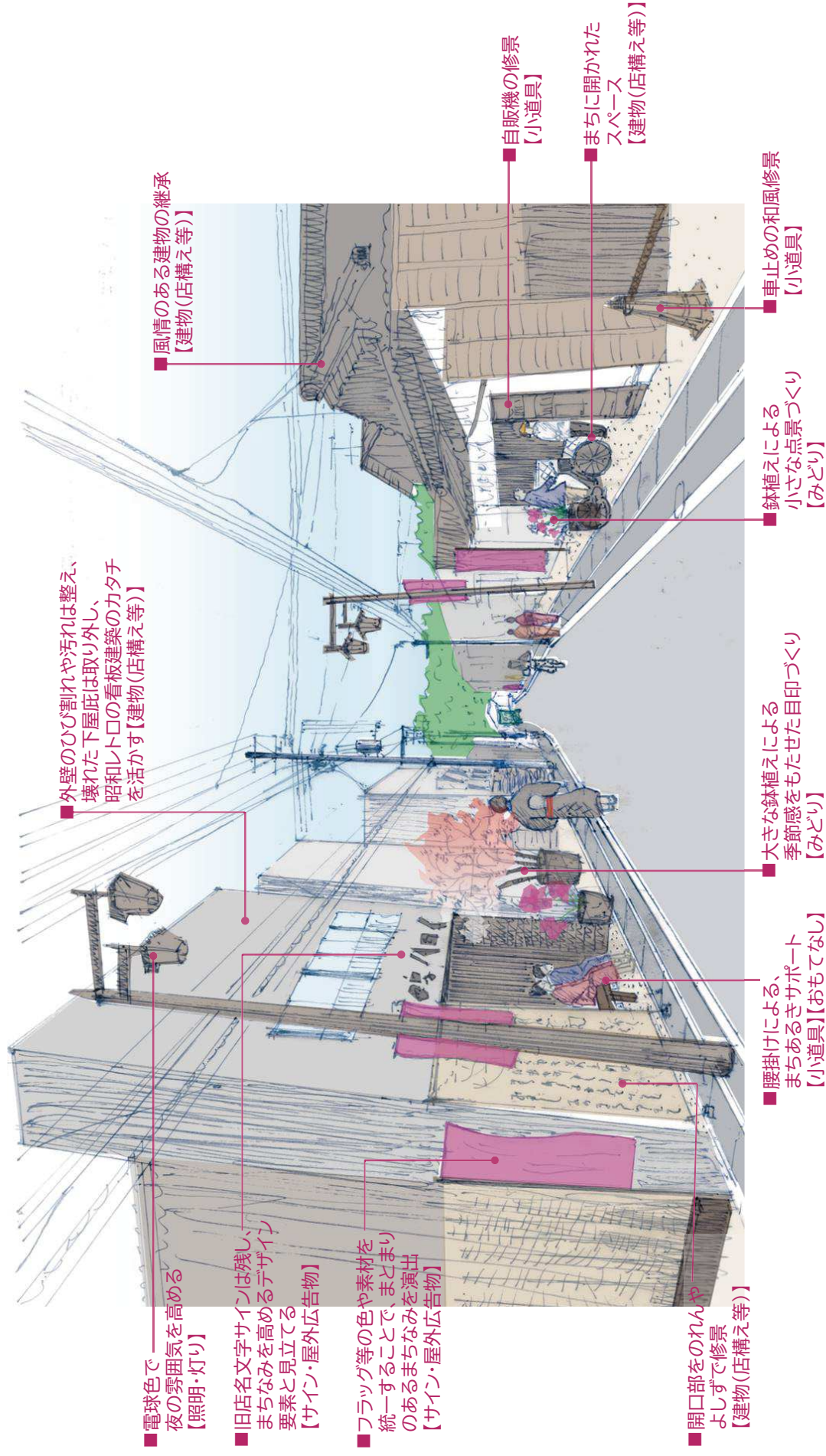


② 温泉街周辺のまちなみづくり 上町通り付近

平方面に対し上方にあたる上町通り付近は、かつては歴史息づくまちなみでした。

新たなまちなみづくりにおいても、**温泉神社付近の新たな拠点とほる等をつなぐ大切な回遊路**です。

歴史風情や質感に配慮しつつも、無理のない範囲で工夫やアイデアを組合せてみましょう。



2 いわき湯本温泉の目指す姿

③ 支所跡地・温泉神社周辺の空間づくり

民生活の知恵とノウハウを活かした温浴施設は、みどり豊かな温泉神社に隣接する新たなまちの拠点となります。

その雰囲気色彩を彩ることができるよう、**温泉感と歴史感に重点を置いたまちなみ**をつくり出しましょう。常磐支所の跡地には、民間活力による温浴施設の開設を目指します。



④ 駅前広場・交流拠点のまちなみづくり

いわき湯本の第一印象となる駅前広場は、**フラ感と温泉感の両方が共存する、湯本らしさ溢れる雰囲気づくり**と、駅出入口と広場が直結させることが、地域の声として期待されています。

そのために、湯けむり漂う施設、異国情緒を感じさせるみどり、フライング等の主会場ともなるひろば等、**人が集い・憩い・交流する印象的な空間**となるよう、デザインを組み合わせてみましょう。



■小道具（ベンチ・テーブル等）を、タウンマネジメント等の仕組みの中で配置することで、自由度のある憩いと集いの場がひろがる【小道具】

⑤ 一番町通りのまちなみづくり

駅前広場・交流拠点とつながる、一番町商店街。

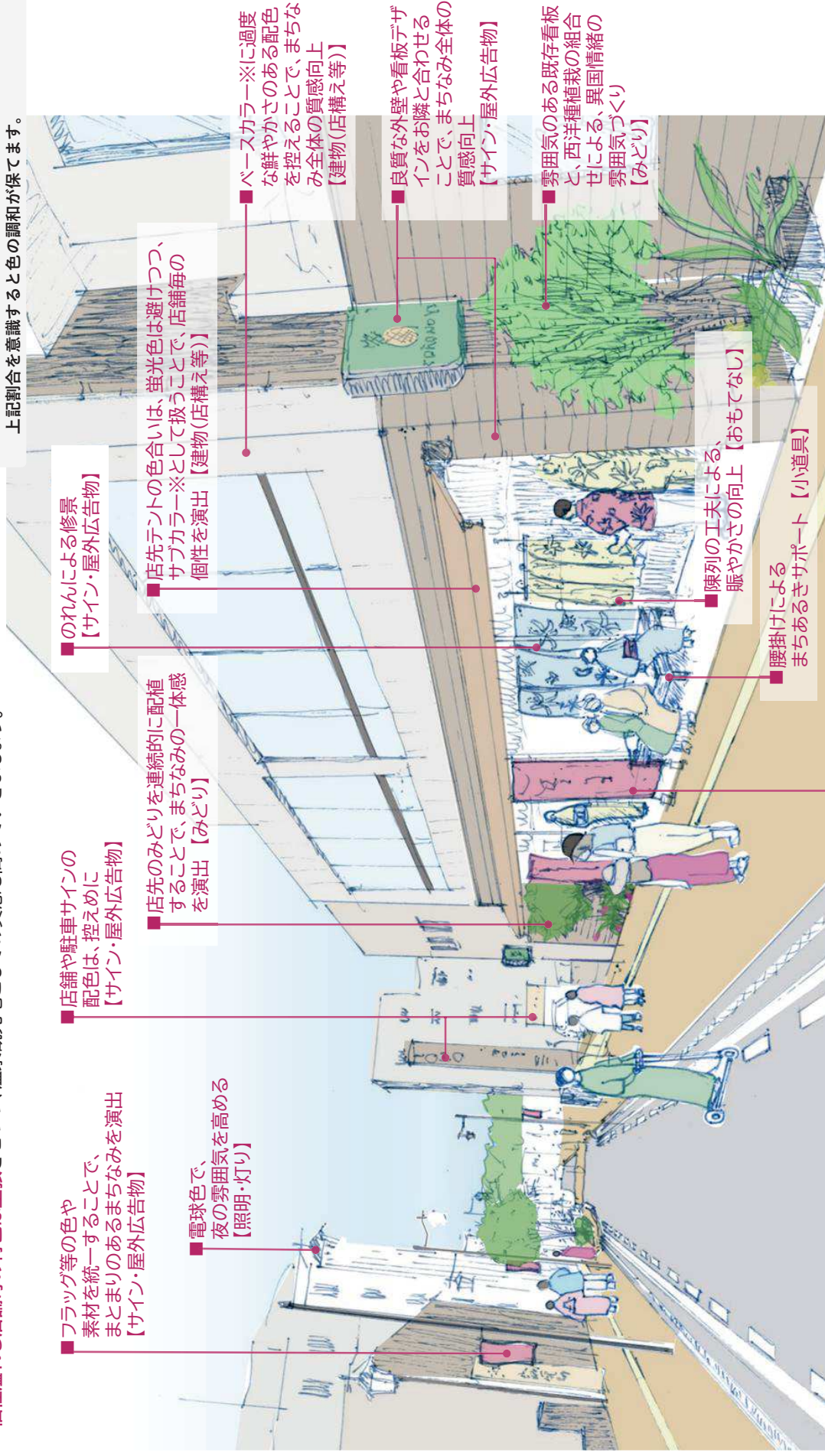
個性溢れる店舗毎の特色は主張させつつ、温泉観光地としての質感も高めていきましよう。

※【色の黄金比について】

色のバランスには、黄金比と呼ばれる割合が存在します。

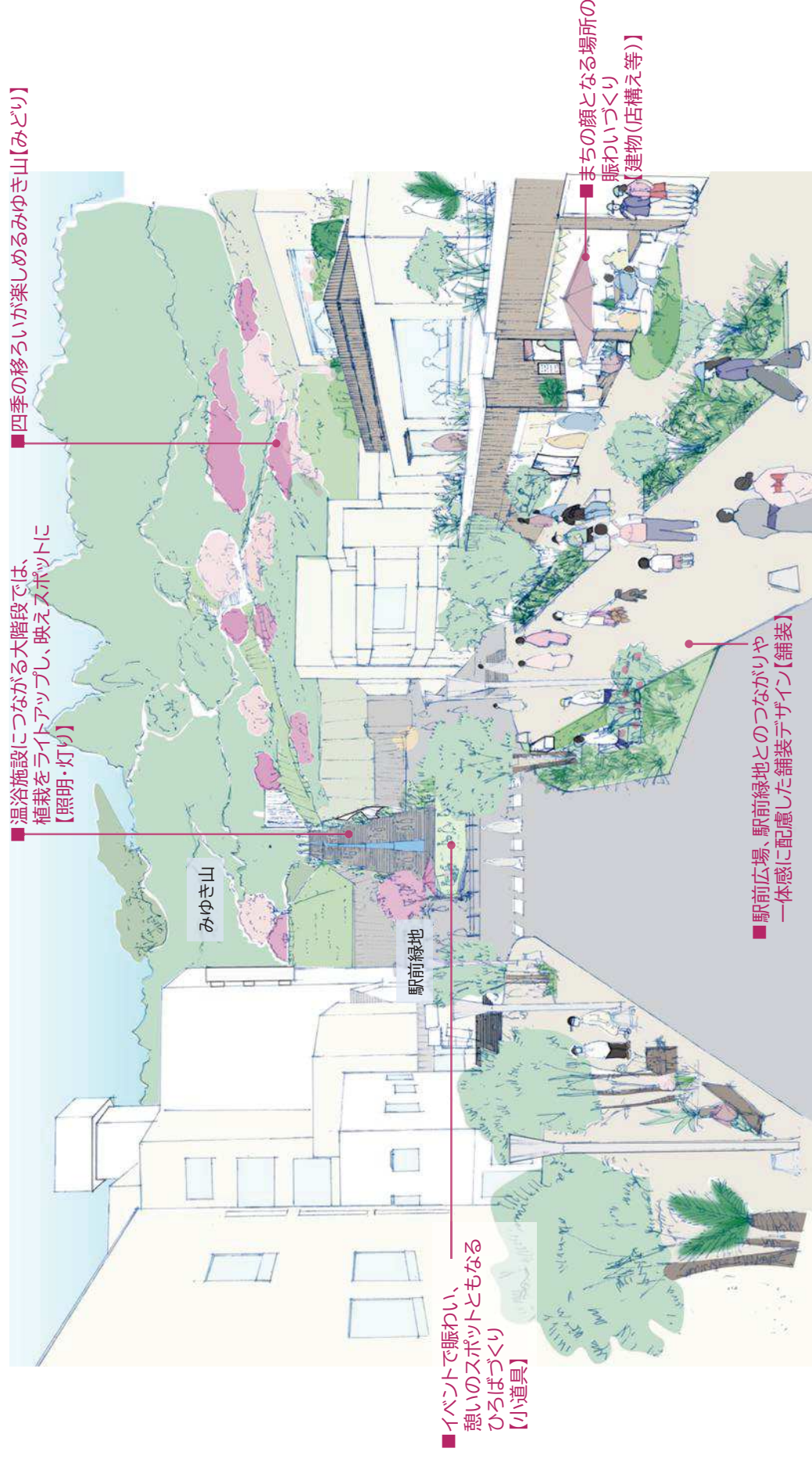
- ・ベースカラー（基調色）：70%
- ・サブカラー（補完色）：25%
- ・アクセントカラー（強調色）：5%

上記割合を意識すると色の調和が保てます。



⑥ 駅前広場-駅前緑地-みゆき山のまちなみづくり

一直線で結ばれている湯本駅前からみゆき山までは、**湯本の玄関口として重要な景観軸**となっています。新たな名所になる大階段と、それを結ぶように連なる駅前緑地は、まち一番の映えスポットに相応しいまちなみとしてつくり出しましょう。みゆき山の階段を登った先では、民間活力による温浴施設の開設を目指します。



2 いわき湯本温泉の目指す姿

⑦ みゆき山の空間づくり

湯本のまちから小名浜方面まで一望できるみゆき山。

花見スポットでもあるこの場所は、かつては『見沖山』と呼ばれていました。

四季の変化を楽しみつつ、毎日でも散策したくなるような空間に育てていきましょう。



3 まちなみのつくり方

【3-1】“おもてなし”の考え方

おもてなしの3つのポイント

お客様が観光地に訪れた際に、「居心地がいいな〜」と感じるまちでは、上質で心地良いと感じる『おもてなし』を体験しているはずです。それでは、心地が良いと感じる『おもてなし』には、どのようなポイントがあるのでしょうか？

① お客様に『歓迎されている』と感じてもらうこと

入店した際に、明るく元気な声で挨拶を受けて、嫌な気持ちにはなりません。お客様に「歓迎されている」「大切にされている」と感じてもらえるような小さな取組や心構えがおもてなしの第一歩です。

② いわき湯本温泉でしか味わえない体験をしてもらうこと

観光地に訪れるお客様は、その場所では味わえない体験を求めています。地域オリジナルのお土産、他のまちにはないフライイベントやお祭りなどを通してお客様に感動を与えましょう。お客様のリピートにもつながります。

③ 期待以上のおもてなしをすること

お客様は観光地に訪れる前に、SNSやWEBサイトで観光地の下調べをして、観光地への期待をふくらませます。そして、観光地に訪れた際に抱いていた期待を大きく下回ってしまうと、がっかりを感じてしまいます。お客様にそう感じさせないよう、期待以上の体験やまちなみを提供しましょう。

“おもてなし”の工夫・アイデア

◆おもてなしの心構え

- ▶ 湯本の人はやさしい。外から訪れた人たちによく言われる言葉です。おすすめの食事処や過ごし方を聞かれても、何でも親切に教えてくれる。様々な文化を柔軟に受け入れてきた、そんな土地柄だからそのおもてなしがあります。それともう、ホテルのコンシェルジュのようなもの。
- ▶ 湯本に住んでいる一人一人が湯本の代表者としての心構えをもって、まち全体でもてなしてみよう。老若男女、国籍問わず、**まちに住む全ての人がもれなく親切に案内してくれる観光地**となれば、お客様のリピート率もぐっと高まり、東北一の温泉地に相応しいまちに変わっていきます。
- ▶ **小さなことからすこしずつ始めること。それを続けることが大事です。**店先を少し掃除するだけでも、お客様へのおもてなしにつながります。
- ▶ **おもてなしの接客を続けることで、観光客が湯本での自分の居場所を見つけ、リピーターから二地域居住へと変わり、時には定住へ。**まちに人が集まり、活気が生まれる変化を、みんなでつくっていきましょう。

◆いわき湯本温泉コンシェルジュ

- ▶ コンシェルジュの方は、お客様の質問や困りごとに対応できるように、各商店や旅館等の営業情報、観光情報、交通情報、お祭りやイベントの情報など、いわき湯本の**いろんな情報を把握しておきましょう。**
- ▶ お客様にいつでもおすすめの場所や過ごし方を提案できるように、**マイプレイスを探し、まとめておきましょう。**地元民のおすすめの場所を知ってもらうことで、リピートにもつながります。
- ▶ いわき湯本の温泉は、千年以上の歴史、豊富な湯量、バランスのよい泉質を有する地域の宝です。その歴史や特質、普遍性を積極的に発信していきましょう。

◆あいさつ

- ▶ **あいさつは誰でも気軽に取り組みることができるおもてなしの一つです。**積極的にあいさつすることで、お客様との会話へとつながります。ただのあいさつだけ、あいさつされた方々が、リピーターや未来の友人となるかも。

◆旅館・店先でのおもてなし

- ▶ 店先に一休みできるような**腰掛け**を設置しましょう。店先が小さな滞留空間になり、お客様との会話が生まれ、購買にもつながります。
- ▶ 一休みできるスペースとして、**旅館の1階や入口付近を開放**しましょう。あわせて、**コーヒーマシーンや軽食を準備**しておくと、滞在時間も伸び、購買にもつながります。
- ▶ イベントや客足が増えたと、トイレの需要が高まります。トイレの貸出には積極的に協力しましょう。利用者とのおもいがけないふれあいや立ち寄り湯による売上向上も期待できます。

◆営業方法

- ▶ 駅前広場・交流拠点周辺のお店は、**公共交通機関の運行時間**を踏まえつつ、**観光客と生活者の動きに配慮した営業時間設定**を行いましょう。
- ▶ いわきFCをはじめとする「スポーツ」の試合日や、まちの祭りやイベントの日には、来訪者の行動を予想した、柔軟な営業時間対応を検討しましょう。
- ▶ そぞろ歩きの舞台となる沿道側での商品の陳列は、例えば**売りの商品やならではの商品を活かしたディスプレイ**を行うことで、お客様の購買意欲が高まります。

◆いわき湯本温泉オリジナルのお土産・アイテム

- ▶ いわき湯本温泉の**オリジナルの提灯やのれん**をまち全体で利用しましょう。一目で「いわき湯本温泉」とわかり、地域ブランディングへとつながります。
- ▶ いわき湯本温泉に関わる**ロゴ等のデザインを積極的に活用**しましょう。



▲『つらのまちいわき湯本温泉』のオリジナルロゴ



▲オリジナルの提灯の事例

◆歴史を感じるおもてなし

- ▶ いわき湯本温泉の“歴史にゆかりのある場”の周りには、サインやベンチを設え、観光客も地元住民も、共に**地域の歴史が学べるような仕掛け**を整えましょう。
- ▶ 歴史的な街道や文人墨客のゆかりがある道路や路地は、**歴史性を伝える工夫**を行いましょう。

◆フラを感じるおもてなし

- ▶ **アロハシャツ**の接客や、店先の**レイ**は簡単にはじめるフラのおもてなしです。
- ▶ まちをふらっと歩いているときに、建物の中やまちなかで**フラダンスの練習**や**イベント**をみることができると、いわき湯本温泉だけでなく、フラダンスができるような**小さなステージやスタジオ**を増やしていきたいでしょう。
- ▶ **フライメージのパターンがプリント**されたパラソルやのれんは、フラの雰囲気を感じることができます。
- ▶ **異国情緒あふれる植物**や、フラのまちいわき湯本温泉のロゴでも用いられているツツジを植えて、いわき湯本温泉らしさとフラ感を演出しましょう。
- ▶ フラミュージックを積極的に活用し、**音からもフラの雰囲気**を高めましょう。



▲看板にレイの装飾 ▲アロハシャツのレンタル



▲店先に異国情緒のある植栽で演出

◆温泉を感じるおもてなし

- ▶ **浴衣や下駄のレンタル**をして、まちなかを歩いてもらうことで、温泉街の風情が際立ちます。
- ▶ **地域全体で湯めぐり**を実施することで、まちを散策する観光客が増えます。
- ▶ **湯けむり**が湧き立つ場所では、**ライトアップ**等により温泉情緒が高まる演出を行います。



▲浴衣や下駄のレンタル



▲湯めぐりチケット(当地)

【3-2】“建物(店構え等)”の考え方

居心地のよいまちなみをつくるためには

歩いて楽しい空間をつくるためのポイントがあるのを知っていますか？
「居心地が良く、歩きたくなる」まちなみを作る3か条をご紹介します。
 特別なことはしません。でも大切な要素です。
 また、いわき湯本の稼ぐまちにするための、建物や店構えの考え方も、目的に合わせた**3つの考え方**として分類できます。
 このようなる3か条と3つの考え方を掛け合わせながら、居心地が良くなるまちなみづくりに取り組んでみませんか？

居心地が良く、歩きたくなるまちなみをつくる3か条

まちに開かれた 1階スペース	多様な使い方	開かれた空間
歩行者目線で中まで見えて、まちあるきの楽しみが増えます	多様な交流は、空間の多様な用途・使い方の共存から生まれます	そこに居たくなる、留まりたくなる場所をつくりましょう



いわき湯本の建物（店構え等）の3つの考え方

まちなみに馴染む	賑わいを生む	建物の中に引き込む
建物を周辺環境に合わせまちなみに馴染ませる いわき湯本温泉全体で活用できる考え方	建物の内外で人と人の交流を生み出す 飲食店や軒先店で有効	建物の前を通った時、店の中に誘導する お土産屋さん等で有効 色々な場面で応用可能

湯本らしさを考えてみよう

いわき湯本の昔からある要素・素材や特徴的な建物をまとめてみました。
 今後いわき湯本のまちなみづくりを考える時、あるいは店構えを考える時、以下の要素を少しでも思い出しみてください。
 全ての要素を取り入れる必要はありません。
先人たちがつくり上げてきたまちなみの歴史や痕跡を、見聞きしておくことも大切です。

●いわき湯本温泉の建物の特性

歴史的な建物



▲鎧張り羽目板の壁面

▲入母屋造、白漆喰

▲和瓦・木格子が

▲擬石仕上げの蔵

塗壁の店構え

残された古建築

(リノベーション)

昭和の看板建築スタイル



▲昭和レトロな
雰囲気デザイン
に取り入れた、
リノベーション建物

▲ギャラリーとして
活用された建物と
シャッターへの
看板アート

テーマ性がある現代的な建物



▲南国の雰囲気、
目線が届く下層階
で演出、上層階は
目立たない配色

▲のれんや植栽等の設えに
よって、まちのアクセント
となる“映え”を演出

“建物(店構え等)”の工夫・アイデア

◆建物の特徴を活かす



- ▶ 湯本には看板建築と言われる昭和レトロな建築様式が数多く残されていることから、**往時の建築の風格は残し、まちに開く1階スペースの設えを変え**ると、居心地が良くなる、特徴的な店構えやまちなみをつくることが出来ます。



- ▶ **ガラス張り**で店内を見せることで、立ち寄りたくなる店構えをつくることもできます。
- ▶ あえての**れん**で隠すような工夫も効果的。
- ▶ 店先で使う看板やのれんは、**落着いた色を主体として、ワンポイントでアクセントカラーを入れる**と、まちに馴染みつつ、魅せたい場所を強調することもできます。



◆足を止めてもらうひと工夫



- ▶ **側面の店構え**をつくりこむことは、空洞化対策だけでなく、“**映え**”にもつながります。
- ▶ **鍍張り羽目板などの古くから残る建築様式**は効果的です。

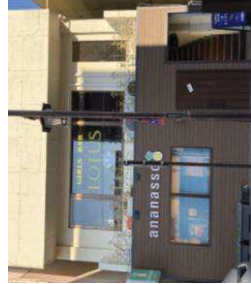


- ▶ ビニール製、トタン、金物など、**時が経つと劣化する素材**ではなく、**瓦、木材、石材といった、時を重ねる(エージング)と共に味がでる素材**を効果的に使ってみましょう。

◆側面にも気を配る

◆素材にも気を配る

◆色の黄金比を使おう



- ▶ **建物の大部分**を占める場所には、**落着いたアースカラー**を、**ワンポイント**で個性を出す**アクセントカラー**を取り入れるのが色使いの方程式です。
- ▶ まちに調和しつつ、魅せたいところに注力した店構えにしましょう。

◆使いこなし方で特色を出してみよう



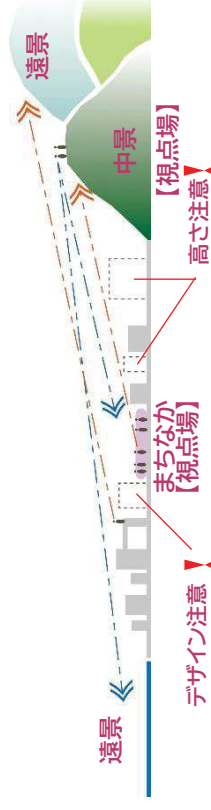
- ▶ 居心地の良いまちなかづくりに、1階スペースの使い方が重要で、**立て看板、ベンチ、植栽等の置き方**だけで、より豊かな居場所をつくりだすことができます。



- ▶ 路地のような幅が狭い空間では、**底の張り出しとカウンターを組み合わせる**と、お祭りの出店のよいうな雰囲気をもった、小さくても活気のある賑わいがつくれます。

◆魅力的な眺めや景観をみんなで守ろう

- ▶ いわき湯本温泉には、市街地を見渡すことができるビュースポット、通りからみえるお寺、社寺林の紅葉、丘陵斜面のみどりなど、魅力的な景観があります。
- ▶ **新しい建物を建てる際は、ビュースポットからの眺め等に十分検討**してみましょう。あなただけの建物で、魅力的な眺めを引き立てることもあれば、気づかぬうちに障害になる可能性があるかも。(⇒参考資料『いわき湯本温泉の視点場と視対象』)



▲いわき湯本温泉のまちなか眺望／視線確保のためのイメージ図

【3-3】“サイン・屋外広告物”の考え方

まちなみを引き立たせるサイン

サインは、設置する地区全体のまちなみの雰囲気に合わせてすることが重要です。また、サインだけが目立ちすぎて、本来の主役であるまちなみ景観を邪魔しないよう、**周辺の色彩や素材と上手く調和させることがポイント**です。

いわき湯本の場合、湯本駅周辺地区では『温泉感とフラ感』を活かしたまちなみづくりを目指し、一方、温泉街地区では『温泉感と歴史感』を活かしたまちなみづくりを目指しています。

この2つの異なるまちなみづくりの中、まち全体のサインシステムとして統一感のあるカタチの方向性としては、『**和モダンなデザイン**』が適しています。

また、色合いについては、ダークグレーやダークブラウンといった**アースカラー系の配色**でまとめると、まちなみと調和しやすくなります。

さらに和モダンなデザインをベースに、**いわき湯本温泉らしさを表現したアクセントとなるデザイン**を取り入れていきます。例えば、『色の黄金比』に配慮しながら、ツツジをイメージできるパターンを配置する方法もあります。

(※詳しくは、資料編「いわき湯本温泉の特徴的な建築・施設の様式、意匠まとめ」へ)



▲アースカラー系の配色を用いつつ、和モダンな雰囲気でもとめられたサインデザインのイメージ事例

まちなみと店の個性を引き立たせる屋外広告物

屋外広告物のデザインについても、サイン同様、まちなみを主役としていく上では、常に気をつけなければいけない要素の一つです。

とかく主張しがちな屋外広告物のデザインについては、周辺環境との馴染みを考慮しつつ、形状、サイズ、配色、設置個所等を検討するようにしましょう。

一方、いわき湯本のまちなみにはユニークで個性的な店舗が数多く営業しています。その店舗等の屋外広告物が、周辺環境と調和させ過ぎたがゆえに埋没するようなデザインばかりになってしまうと、いわき湯本らしさの魅力が抑え込まれてしまう懸念もあります。

また、屋外広告物は人を引き寄せる効果もあるので、まちの回遊性を高めます。

よって、いわき湯本温泉では、店の個性を活かしつつまちの魅力と回遊性を高め、かたや周辺のまちなみ環境にも配慮させるといふ、**多様性に富む、いわき湯本温泉オリジナルの『屋外広告物のルールづくり』**が必要です。

“サイン・屋外広告物”の工夫・アイデア

◆店の個性の表現する



- ▶ のれんは店の個性の表れです。まちなみに調和しやすいのでワンポイントでアクセントカラーを入れて個性を表現しましょう。



- ▶ 従前の看板の継承は、地域の記憶の継承や個性的なデザインにもつながります。



- ▶ 電球色の内照式看板は、温泉街の夜の雰囲気にもマッチします。



- ▶ 手書き風の外国語フォントや、箱文字も、店の個性を引き出します。

◆連続性を生み出す



- ▶ 店看板をデザインする際には、土地柄を感じさせる文字体を考慮しつつ、隣近所でその雰囲気と合わせる等により、まちなみの連続性が生まれます。



- ▶ 路地の入口に置き看板を設置すると、路地に入り込むような仕掛けになります。
- ▶ 置き看板を、節度は持ちつつ路地に面して接するように設置すると、個性的で賑やかな路地空間が生まれ、人の呼び込みを促します。



◆路地への誘導とにじみだし

◆みんなで慎重に考えましょう



- ▶ 大型で高彩度な集合看板は、雑然した印象を与えてしまうので、慎重に検討しましょう。



- ▶ 高彩度の誘導看板は、まちあるきの際の目に留まりやすいです。



- ▶ 建築の上部に設置する大型の看板は、通りや視点場からの眺望を邪魔してしまいます。



- ▶ まちを歩いている、目に飛びこんでくる大きすぎる看板は、歩行者に圧迫感を与えます。



「いわき市屋外広告物条例」にもとづきながら、「サイン・広告物の工夫」を実践してみましょう。条例について詳しくはQRコードからご覧ください。 >>>

<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/genre/1000100000125/index.html>

詳しい情報を
知りたい方は

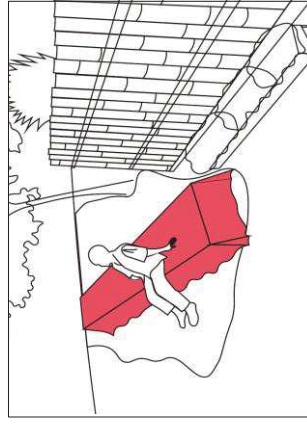
【3-4】“小道具”の考え方

小さなところから創造してみよう

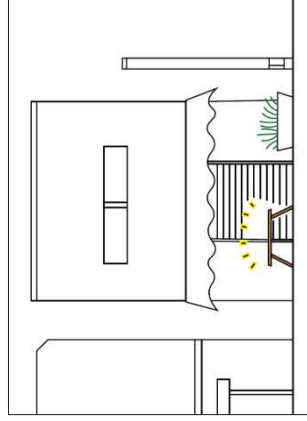
普段まちなかでよく見かけるちよとしたベンチなどの小道具も、使い方によってはまちなかに新しい力を与えます。思い描いているビジョンやイメージを具体的に想像しながら、どんな小道具を使えば良いか考えてみましょう。

“小道具”の工夫・アイデア

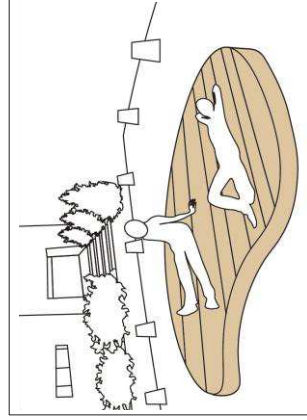
◆ベンチ・テーブル



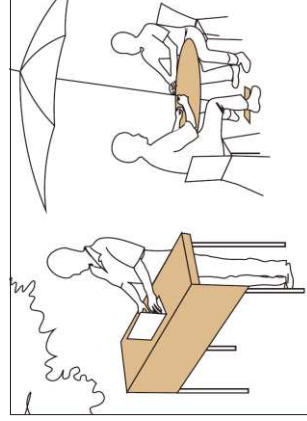
- ▶ ポケットパークなどには木陰でゆっくりできる腰掛けを設置してみましょう。
- ▶ アクセントカラーで椅子の色を揃えるだけで、一体感が生まれます。



- ▶ シャッターが閉まっている店先にも、店先にベンチやプランターがあるだけで、まちの寄り合いスペースに様変わりします。

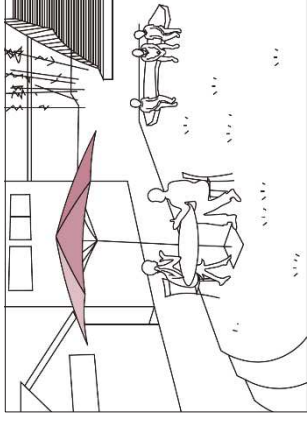


- ▶ 湯本の空を眺めながらお話ししたい。ハンモックも良いけど、縁台ベンチなら並んで語らうこともできます。

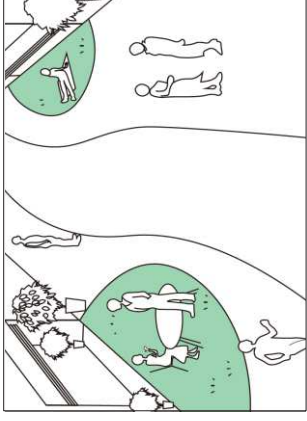


- ▶ パラソルの下にテーブルを置くと、長話できます。
- ▶ 隙間時間に少し仕事したい時は、スタンドタイプの机がおすすです。

◆オーニング・敷物

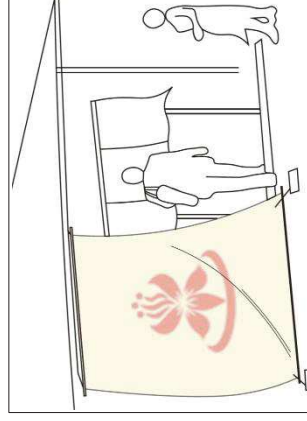


- ▶ パラソルは彩度を落とした差し色を使うことで、派手な印象を与えず、閉じていても悪目立ちしなくなります。

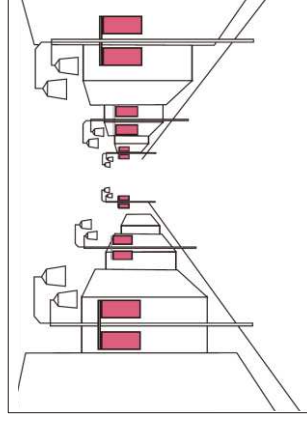


- ▶ 普段通っているいつもの道に、人工芝のマットを軒先に広げるだけで、立派な滞留空間に変身します。

◆のれん・のぼり

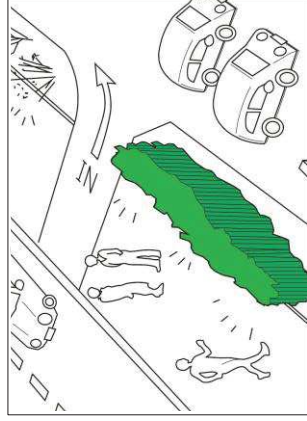


- ▶ 幅広ののれんは、見せたくないものを隠しつつ、整然とした店構えに変えられる便利なアイテムです。

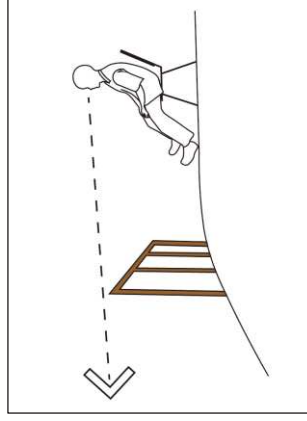


- ▶ 照明灯に設置するフラッグは、通り全体で同じ高さ、同じ場所にかけると、引き締まった印象ができます。
- ▶ ワンポイントのアクセントカラーなら、より魅力的になります。

◆フェンス

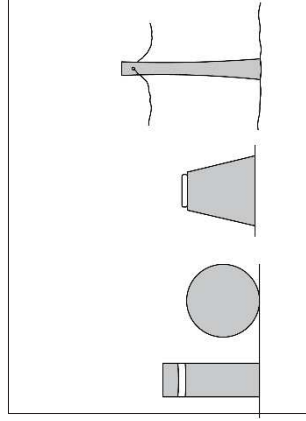


- ▶ 駐車場の車がまちなみから見えると、少し雑多な印象になります。
木柵や生垣で駐車場の車をかくし、彩りのあるまちなみをつくりましょう。

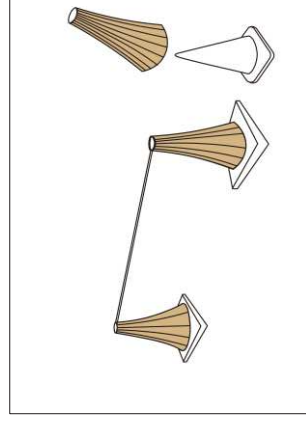


- ▶ 柵は安全を守るためのものだけど、その場所にあった気遣いをしてあげるだけで、居心地が格段にあがります。

◆車止め・人止め

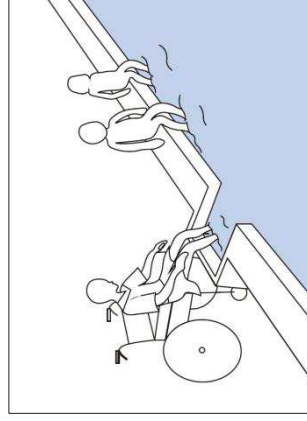


- ▶ 脇役だからこそ、エリアごとに統一して、まとまりを持たせてあげましょう。

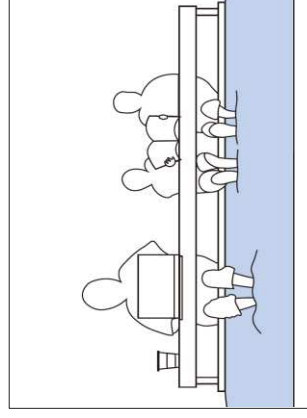


- ▶ カラーコーンでは、温泉街の雰囲気にはマッチしません。竹の帽子をかぶせることで、温泉街の雰囲気にぴったりマッチします。

◆足湯

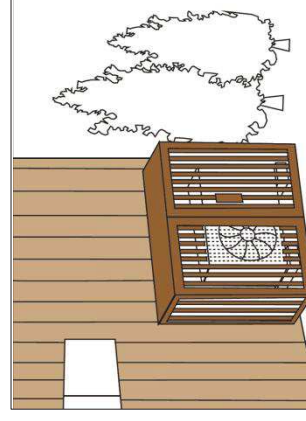


- ▶ どんな人でも湯本のお湯を堪能して欲しい。
車いす用の足湯や手湯を設け、みんなに優しい外湯体験が提供できます。

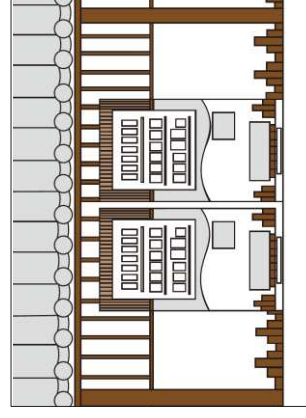


- ▶ 足湯にテーブルを設ければ、足湯に入りながら、仕事や勉強、読書もできます。

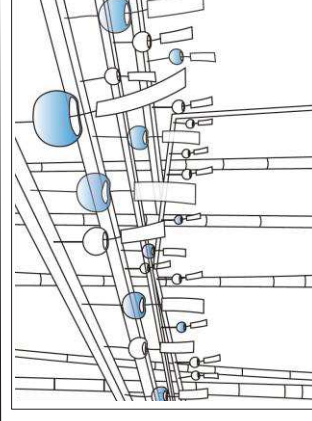
◆目隠し



- ▶ 室外機や自販機などは、外壁に色を合わせたり、外壁と同じ素材で隠しましょう。



◆その他



- ▶ 温泉神社の風鈴は、涼を感じて頂くの季節の風物詩



- ▶ お気に入りのプロンズ像を探しながら、まちを散歩するのはいかが？

【3-5】“照明・灯り”の考え方

安全で適切な、明るいまちなみに

温泉街は情緒が大事、それを生み出す明るさも大切です。でも、普段の生活が不便だと困る。明るさ(=照度)も、場所を選んで決めましょう。

あたたかみのある灯りが夜を彩る

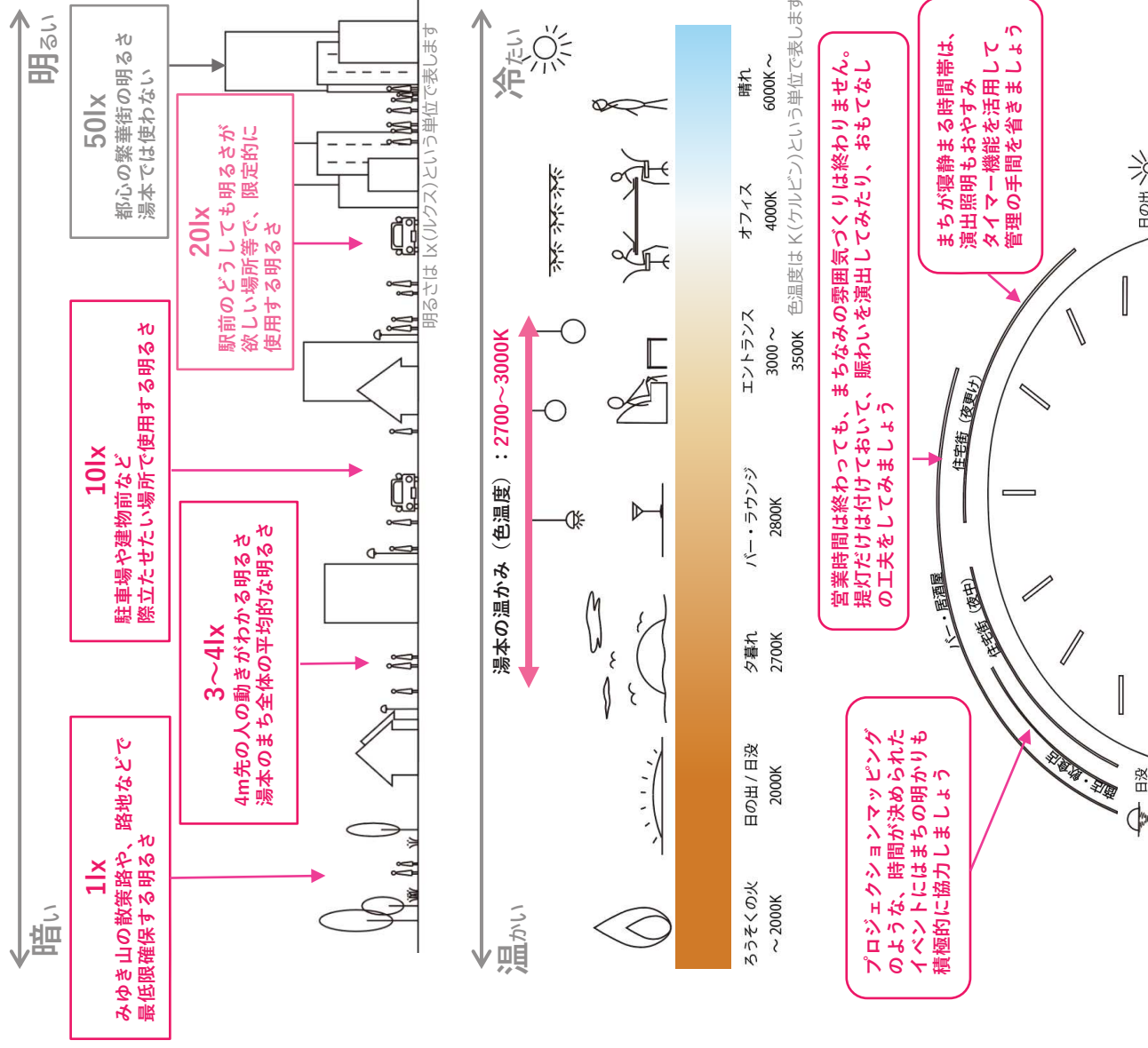
照明には、明るさ以外に、温かみという視点もあります。湯本温泉の色の温かみ(=色温度)を決めておくことで、まち全体が一つの演出された空間になります。

湯本の場合、温泉街としての落ち着いた雰囲気と、ホテルのエントランスに居るかのようなくつろぎを感じさせる温かみのある色温度で統一していきます。

点ける時間にも気を配ろう

せっかくの温泉街だから、夜も楽しみたい。安心して帰るためにも、灯りは明け方まで点いていて欲しいけど、寝てる人もいるから、どんちゃん騒ぎして欲しくない場所は、あえて暗くしましょう。

点灯時間を照明の種類・エリアごとに揃えることで、快適で情緒豊かな温泉街の夜に変えていきましょう。



“照明・灯り”の工夫・アイデア

◆安心して歩けるまちに



- ▶ 頭上から照らす灯りと、足元にも配慮した灯りを使い分けて、安心して歩ける沿道空間にしましょう。
- ▶ 直接光を照らすのではなく、屋根や壁に反射させることで、まぶしさを抑えた柔かい光のある雰囲気演出できます。

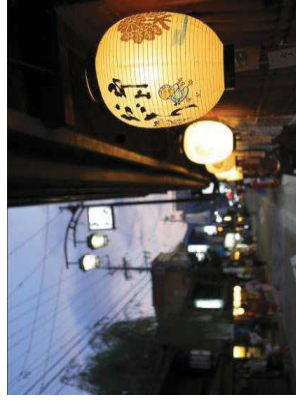
◆誘うような照明



- ▶ ゆっくり散策して欲しい場所には、照度を抑えた照明を道るべ的に配置することで、通りとして強調しつつ、“映える”演出ができます。
- ▶ 水路を間接照明で照らすことで、水路が続く方向に歩いてみたくなります。
- ▶ ベンチ等の足元を間接照明で照らすと、夜のまちの小さなたまり場になります。



◆店先を演出しよう



- ▶ 提灯は店先にワンポイントで入れることで、人の気配を感じさせる演出ができます。
- ▶ のれんを照らすことで、まちに溶け込むような柔らかな灯りを演出できます。



◆主役の魅力をスポットライトで際立たせよう



- ▶ 樹木を真下から照らし、浮かび上がるような演出を行うことで、自然でやさしいあたたかみのある雰囲気をつくれます。
- ▶ 下から照らすポイント照明は、モニュメントとも相性が良く、印象深い景観を演出します。
- ▶ 湯けむりへのライトアップは、温泉街らしさが一層高まる表情を生み出すことができます。

【3-6】“みどり”の考え方

民と公の連携によるみどりづくり

みどりは、ストレスの軽減、快適性の向上、ゆとりやくつろぎを生み出す、地域生活に欠かせない大切な機能です。加えて生物多様性の向上、地球温暖化の防止、防災力向上においても、

“みどり”の工夫・アイデア

◆店先や路地でのみどり



▶ 一皮の細長い空間でも、鉢植え植栽等を組合せながら配植しつつ、向こう三軒両隣の協力により、まちなみの潤いを高めます。



▶ 高木に足元植栽を重ねると、投げ所がある居場所が生まれます。



▶ 季節を感じる鉢植えを地域全体で売り出すと、一つのコンテンツになります。
▶ ドライフラワーや造花等を上手に混ぜることで、彩りを保ちつつ、日々の負担を抑えます。



▶ 何気ない路地裏も草花の彩りで、お気に入りの小道になります。



▶ 生活道具も特色あるプランターとして活かします。



▶ 水鉢に花を浮かべるだけで、おもてなしのメッセージとなります。



▶ 店先にプランターを設置することで、ふれあいと交流が広がります。

みどり豊かなまちなみづくりは大切です。湯本の自然と季節感を持ったまちなみによって、おもてなしに相応しいみどりを、民と公で役割分担を図りながら、育んでいきましょう。

◆広場や通りでのみどり



▶ 特徴的な大木や花木は、周遊の際の目印や木陰となります。



▶ 株立ちと呼ばれる特徴を持つ樹木を使うことで、単木でも林のような雰囲気になります。



▶ 薄暗くならない程度植栽が、水辺の清涼感を演出します。



▶ 異国情緒の雰囲気をもった植栽単体だけでなく、他の樹木を複数組み合わせる方が、景色全体の馴染みが良くなります。



【3-7】“舗装”の考え方

地味だからこそ丁寧に仕上げる

普段何気なく歩いていく舗装。いつも見慣れて気付かないけど、まちなみの広い部分を占める大切な要素です。主役にはならないけれど、**脇役がしっかりすると、通りの風情が高まります。**

“舗装”の工夫・アイデア

◆参道空間を演出する



▶ 温泉神社の石畳は、風情を残す要素として残り、他のエリアとのつながる**イメージ**が大切です。

◆長く使える舗装を



▶ 車道には**耐久性が必要**です。継続的な維持管理を念頭に、歩道との組合せの中で、美観に配慮したデザインを行いましょう。

◆地域の歴史を継承する



▶ 湯本を宿場町とした旧浜街道や往時の炭鉱軌道跡は、後世に継承すべき大切なまちの記憶です。
▶ 新たな参道空間に相應しい質感をもったみちデザインとし、そこに**フンポイントサイン**を付けることで、歴史性に想い馳せながら散策して頂きましょう。

◆各拠点の橋渡しをする



▶ 自然の風合いが相応しいみちについては、デザインでつながりを表現し、**回遊路としての視認性**を高めましょう。

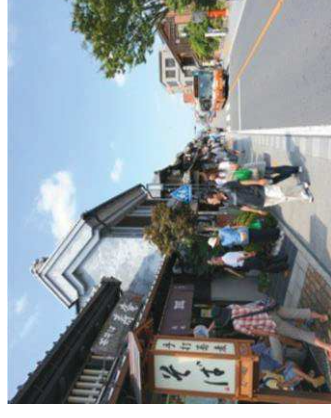


▶ 一番歴史的な雰囲気求められる場所については、最も質感の高い雰囲気づくりを考えましょう。

◆大通りは歩きやすさと親しみやすさ

▶ 車道と歩道が分かれている道路は、**車イスでもキャリーケースでも安心して通れる歩道づくりに**配慮しつつ、また湯本の雰囲気になじむ色合いと質感を持たせ、かつ維持管理しやすいみちづくりを行いましょう。

▶ 人通りが多くなる道路は、歩行者が安心して歩けるみちにしたい。
緩やかにエリア分ける舗装デザインと雨でも安心して歩ける設えに留意しながら、車と共存できる歩行者空間を生み出しましょう。



3 まちなみのつくり方

【3-8】まちなみづくりのルール

フラ感や温泉感等といったまちなみづくりのためには、ルールの共有が大切です。
ここでは、「**基本的なルール**」と、「**挑戦的なルール**」に分けて整理しています。

この2つの約束事(ルール)をみんなで実践し、
“東北一の温泉地”にふさわしいまちなみを実現しましょう！

※本まちなみづくりのルールは、「地区のイメージ」や「まちなみのつくり方」に対応しています。

項目		基本的ルール	推奨ルール
おもてなし	いわき湯本温泉 コンシエルジュ	• お気に入りのマイプレイスを整理しておきましょう。 • 店舗やイベント情報を把握しておきましょう。	—
	あいさつ	• あいさつを心掛けましょう。	—
	店先・庭先・宿等 でのおもてなし	• 店先や玄関ホール等を開放しましょう。	• トイレの貸し出しに取り組みましょう。 • 庭先等を開放しましょう。
	営業方法	• 売りの商品が引き立つディスプレイとしましょう。	• イベントや公共交通の運行に合わせた営業時間としましょう。
建物(店構え等)		• 「色の黄金比(ベースカラー[70%]・サブカラー[25%]・アクセントカラー[5%])」を意識しましょう。 • 周辺やまちなみの眺めを妨げないものとしましょう。	• 新たなお客さんの立ち寄りも考えた店構えとしましょう。 • 路地の建物にはカウンター等を設け、出店の雰囲気づくりを図りましょう。 • 【温泉街】昔からある建築様式や素材も継承してみましょう。
サイン・ 屋外広告物	サイン	• クセを抑えた和モダンをベースに、湯本らしさを取り入れたデザインとしましょう。	—
	屋外広告物	• 大きすぎず看板は控えましょう。 • 看板の設置位置や雰囲気は、隣近所で揃えてみましょう。 • 高彩度の色合いは抑え、アクセントカラーはワンポイント利用としましょう。	• 手書き風のフォントや箱文字等を使って、お店の個性を表現してみましょう。 • 【駅前】フラのおもてなしを高める、ロゴや柄をデザインしてみましょう。 • 【温泉街】従前の看板デザインを活かして、お店の個性を表現しましょう。
小道具	ベンチ・ テーブル	• まちあるきの方々にひとやすみしてもらえらる腰掛けを設置しましょう。	• 腰掛けやテーブル等を組合せ、思い思いの過ごし方をサポートしましょう。
	オーニング・敷物	• 彩度を落とした色合いとしましょう。	• 店先や広場では、人工芝を活かした居場所づくりを図りましょう。
	のれん・のぼり	• フラッグ等の設置位置は揃えましょう。	• アクセントカラーやオリジナルロゴを入れて、店の個性を表現しましょう。

項目		基本的ルール	推奨ルール
小道具	フェンス	エリアごとに色・高さ・メッシュ柄等を合わせましょう。	駐車場では生垣や竹柵等を用い、車両を隠しましょう。
	車止め・人止め	- アースカラー系を用い、シンブルなデザインとしましょう。 - 乱立は避けましょう。	【温泉街】竹の帽子を被せるなどの一工夫をしましょう。
	足湯	—	- バリアフリーに配慮しましょう。 - 足湯を楽しんで頂きながら、ちょっとした仕事や読書等もできるテーブル等も組合せてみましょう。
	目隠し	室外機等は、背後の外壁等と合わせた色や素材で隠しましょう。	【温泉街】自販機等は、アースカラー系の落ち着いた色合いとしましょう。
	色温度	電球色(2700K～3000K程度)で風情を演出しましょう。	—
照明・灯り	照度	- 特に重要な視点や駅舎前等の建物出入口付近は、20lx程度としましょう。 - 主要な駐車場や建物の入口付近は、10lx程度としましょう。 - 人通りが多いみちや広場では、3～4lx程度としましょう。 - 散策路等は道しるべとなるよう、1lx程度としましょう。	—
	点灯時間	—	営業時間がおわっても、店先の照明は点灯しておきましょう。
	演出方法	湯けむり等、まちなみづくりの主役となるものをライトアップしましょう。	- 色が変わられる照明器具を使って、四季の植栽演出等を図りましょう。 【駅前】足元灯を活かし、安心感のある滞留空間をつくりましょう。 【駅前】水路沿いを辿ってみたくなるような照明演出を図りましょう。 【温泉街】提灯等を用い、温泉街の雰囲気を高めましょう。
みどり	店先や路地	店先や庭先に植栽を植えて、みどりの連続性を生み出しましょう。	- 地域全体で季節感を感じて頂ける植栽風景を生み出しましょう。 - 家先で草花を連れ、辿ってみたくなるような路地をつくりましょう。
	広場や通り	- まちの拠点には、アイストップとなる大木や花木を植えましょう。 【駅前】フラの雰囲気演出する種と郷土種を組み合わせましょう。	“株立ち”形状の樹木を用い、みどり感を高めましょう。 【駅前】水景と地被類を組合せ、潤い感を高めましょう。
舗装		- 安全に歩けるよう、車道と歩道をエリア分けしましょう。 - 段差等、バリアフリーに配慮しましょう。 - 雨天での歩きやすさに配慮しましょう。 - 耐久性や維持管理のしやすさに配慮しましょう。	- 回遊路となるみちは、舗装や仕上げを合わせましょう。 - 自然の風合いが相応しいみちは、自然色に近い雰囲気での舗装としましょう。 【温泉街】歴史的な雰囲気のみちは、石畳の風合いに近い舗装としましょう。

4 目指す姿の実現に向けて

【4-1】まちなみづくりを実現する制度

まちなみづくりの約束事をつくろう

ここまで、「いわき湯本温泉の目指す姿」や「まちなみのつくり方」などを見てきました。

これから私たちは一人一人のペースでまちなみづくりに取り組むことになりましたが、おそらく数年で完成するものではなく、多くの方たちが話し合いながら、長い時間をかけてコツコツと続けていくことになるでしょう。

まちなみづくりを長い目で確実に続けていき、さらにつくり上げたまちなみを長く守っていくためには、みなさんの合意のもとに約束事(ルール)をつくることが有効です。

法律や条例にもとづくものや、地域独自のものなど、さまざまなルールがあるなかで、いわき湯本温泉で有効活用できそうなものをいくつかピックアップしてみました。今後、みなさんと話し合いながら、こうしたルールづくりについて考えてみましょう。

策定主体	認可までの流れ	根拠となる法・条例	実効力(規制力)	事例	特徴
景観形成重点地区	①地元住民組織の設立 ②地区景観基本計画 地区景観形成基準の作成 ③協議会、住民説明会 ④地区指定(市長)	景観条例 (いわき市の景観を 守り育て創造する条例)	中	・小名浜地区 景観形成重点地区 ・月見町新川町通り 景観形成重点地区 ・久ノ浜はまかぜロード 景観形成重点地区	・地域主体で策定する。 ・景観(まちなみ)を形成・維持しやすい。 ・地区(エリア)で設定できる。 ・景観形成重点地区に指定する必要があるが、指定までの手続きに時間がかかる。 ・建築物等を建てる際、届出が必要である。
沿道修景協定	①地元住民組織の設立 ②沿道修景協定の作成 ③沿道住民の合意形成 ④沿道協定の指定(市長)	—	弱	—	・地域主体で策定する。 ・沿道ごとに基準・規制等を策定できるので、無理のない範囲で設定できる。 ・景観形成重点地区と比較すると実効力が弱い。
まちづくり協定等	①運営委員会の設立 ②協定の作成 ③沿道住民の合意形成 ④協定の指定(市長)	—	弱	・フォレストタウン まちづくり協定	・地域主体で策定する。 ・沿道ごとに基準・規制等を策定できるので、無理のない範囲で設定できる。 ・建築物等を建てる際、運営委員会への届け出が必要である。

※景観形成重点地区と沿道修景協定の両方を実施する方法を採用すると、実効力(規制力)はさらに高まります。

⇒ 今後は地域のみなさまと話し合いながら、いわき湯本温泉のまちなみづくりに合った制度を模索し、策定していきましょう。

【4-2】 まちなみづくりを支援する仕組み

いわき湯本温泉には、まちなみづくりを支援するさまざまな仕組みがあります。ぜひご活用ください。

◆まちづくり・景観まちづくり・ボランティア活動をされている方へ

事業をサポートする仕組み

- ・ まち・未来創造支援事業補助金
- ・ 福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）
- ・ 景観まちづくり市民団体活動促進助成金
- ・ いわき市市民公益活動災害補償保険（ボランティア保険）



◆まちづくりを行う人の研修を検討している方へ

事業をサポートする仕組み

- ・ 明日をひらく人づくり事業
- ・ リノベーションまちづくり専門家派遣事業



◆日常生活サービス施設の施設更新を検討されている方へ

事業をサポートする仕組み

- ・ ”フランチイいわきへ”都市機能誘導施設等整備促進事業



◆ポケットパークや小さな広場を整備・維持管理をされている方へ

事業をサポートする仕組み

- ・ 面的地域価値の向上・消費創出事業



◆空き家・空き店舗を活用し事業を展開（検討）されている方へ

事業をサポートする仕組み

- ・ いわき市空き家改修支援事業
- ・ 店舗等新規出店支援事業費補助金
- ・ 地域商業機能複合化推進事業
（地域の持続的発展のための中小事業者等の機能活性化事業）



詳しい情報を
知りたい方は

右記のQRコードからアクセスしてください
<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1678098108898/index.html>



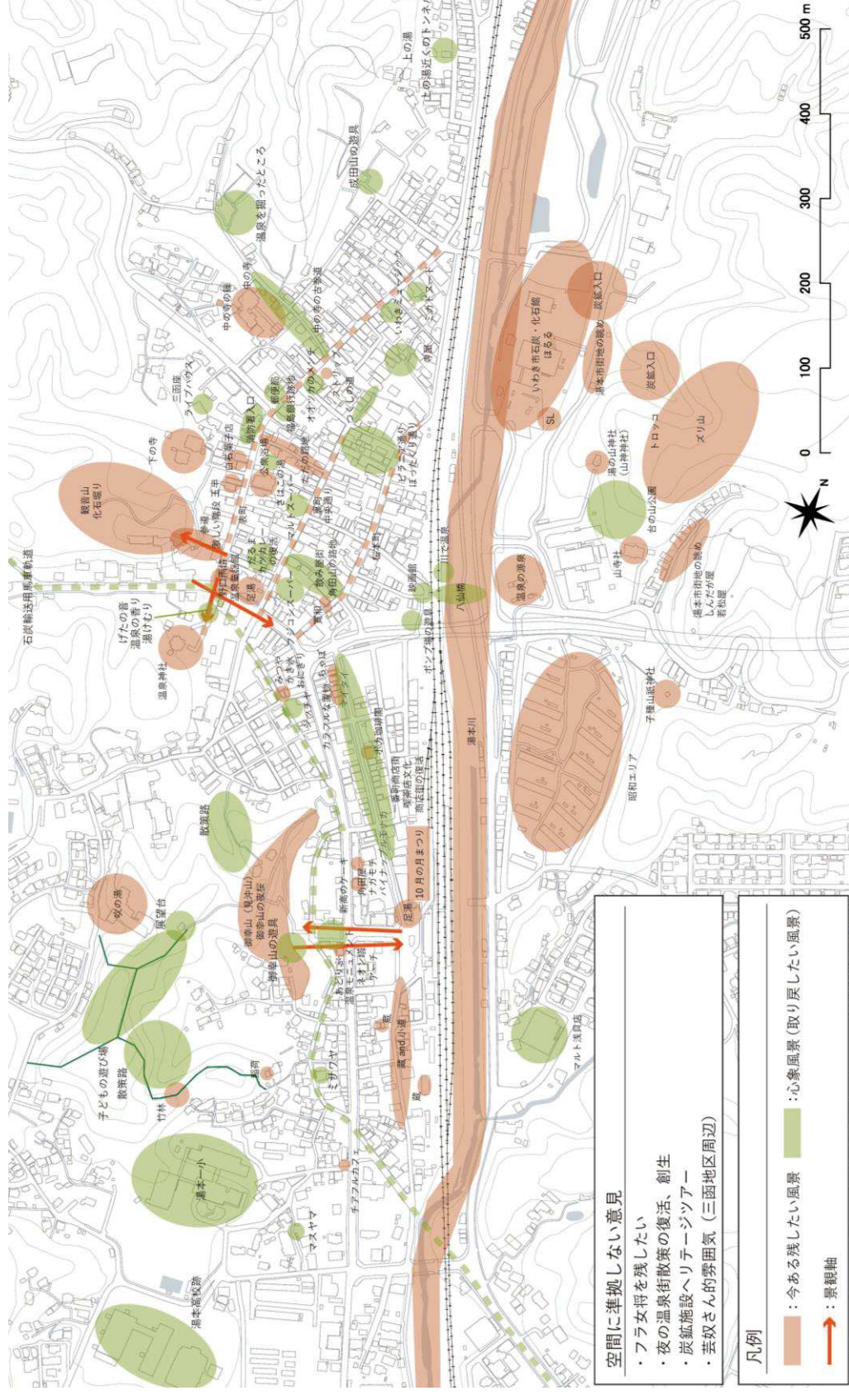
※支援メニューについては、随時変更となりますので、上記よりご確認ください。

5 資料編

①まとめの見意のワークシヨップの声

地域ワークショップにて、思い出に残っている場所と今のいわき湯本温泉に残っていて、これからも残していきたい大切な風景の二つをお聞きました。

以下の地図には、そんな残したい・取り戻したいまちの風景と場所を全て地図上に記してあります。地図をみながら、当時の思い出に花を咲かしつつ、残したい・取り戻したいまちの風景を自身でも考えてみましょう。

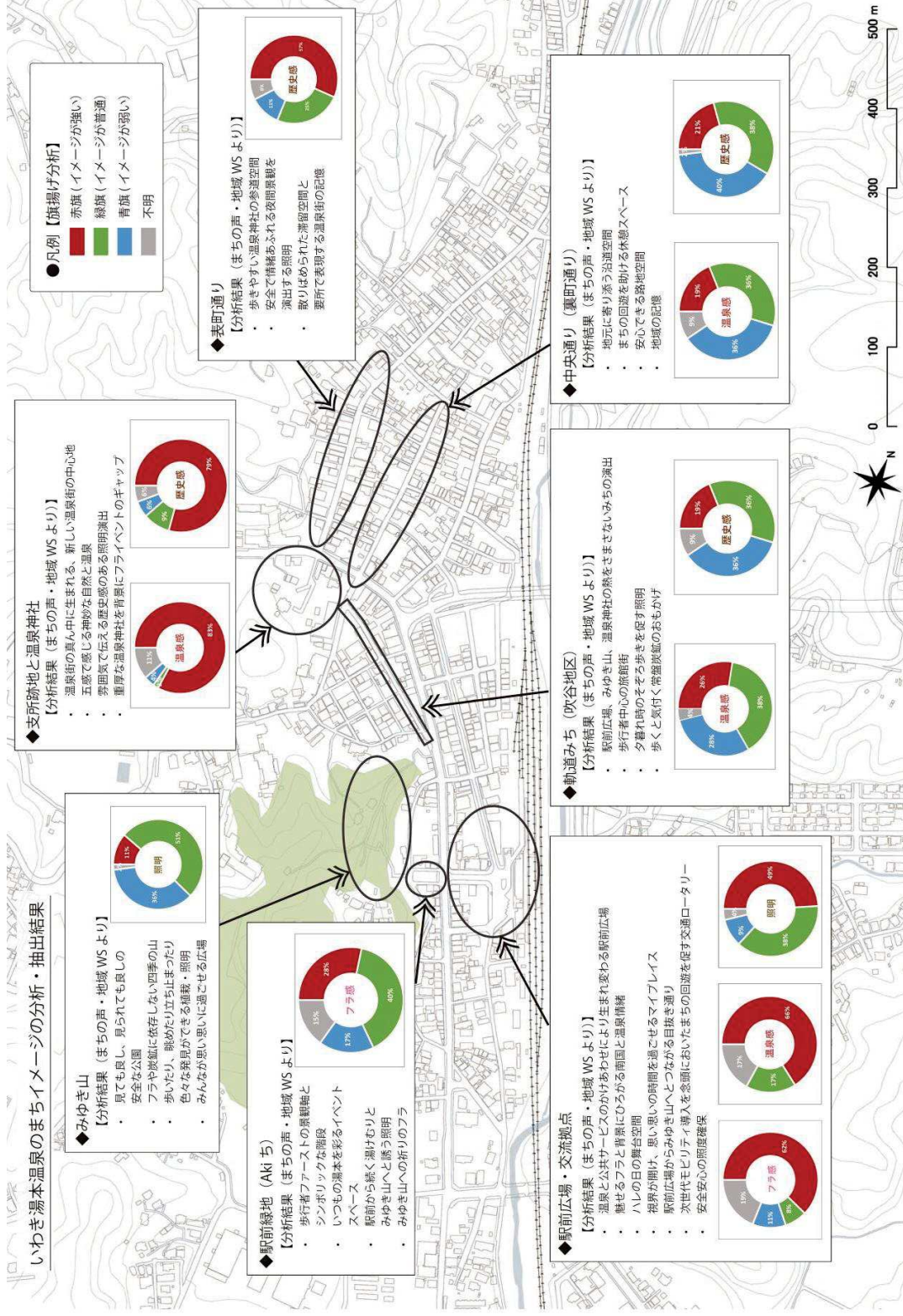


▲残したい・取り戻したいまちの風景と場所【第1,2回地域ワークシヨップより】

▶地域の声・ワークショップの意見まとめ②

地域ワークショップにて、各まちなみ・エリアの雰囲気・イメージと各まちなみのイメージを演出する方法について地域のみなさまにお聞きしました。

結果として、湯本駅前周辺のまちなみは、“フラ感”と“温泉感”、“温泉感”、温泉街地区については、歴史感と温泉感が強いといったまちなみのイメージが分かりました。



▲いわき湯本温泉のまちなみのイメージ分析【第6回地域ワークショップより】

▶いわき湯本温泉の歴史まとめ

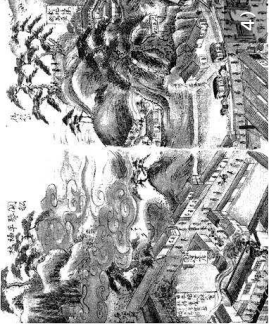
いわき湯本温泉が歩んできた温泉宿場町の歴史をまとめました。
年表を見ながら往時の風景を思い返してみよう。

▼いわき湯本温泉の歴史年表

年代（和暦）	事柄
718(養老02)年	石城國が建国、湯本温泉の存在が奈良朝廷にも知られるようになった
927(延長05)年	延喜式神名帳に、「陸奥國磐城郡温泉神社」が選上された 三箱御湯と呼ばれ、道後温泉、有馬温泉と共に、日本三古泉と称した
997(長徳03)年	拾遺和歌集に「あかずしてわかる人の住む里はさはこのみゆる山のあなたか」が載せられた(詠み人知らず)
1290(正応03)年	末木和歌集に「温泉の部・よとともに歎かしきをみちのくのさはこのみゆといわせてし哉」が載せられた
—	戦国時代、信濃御湯・名取御湯・三箱御湯を日本三大名湯と称した
1747(延享04)年	湯本温泉が天領になり、陸前浜街道唯一の温泉宿駅として発展し、湯治の名所に
1761(宝暦11)年	吉田定頼による磐城枕友において、「四時湯客絶へズ、湯女アリ、戸数三百餘(あまり)、繁昌ノ地ナリ」と記述され、温泉宿場町としてのまちの賑わいがみられる
1900(明治30)年	芝居小屋として、三函座が建設、歓楽街としてのまちの賑わいがみられる
1902(明治35)年	石炭産業の進出に伴って温泉源が低下し自噴しなくなる
1913(大正02)年	温泉を確保するため「湯本財産区」を設置
1915(大正04)年	童謡詩人の野口雨情がいわき湯本地区での生活を始める
1942(昭和17)年	炭鉱会社と湯本財産区で毎分五十立尺の送湯契約が成り、約三十年ぶりに温泉の利用が再開される
1976(昭和51)年	炭坑閉山に伴い、新源泉から揚湯に成功
1995(平成07)年	江戸時代末期の建築様式を模した「さはこの湯温泉保養所」がオープン
2000(平成12)年	湯本温泉モニュメント「愛湯物語」完成
2006(平成18)年	鶴の足湯広場完成



▲醍醐天皇の御時
(引用：三函温泉由来記)



▲三函湯本勝地名蹟拾五有所
(明治45年頃、斎菊勝之介作、嶋崎剛氏所蔵)



▲歩行者が多く賑わう表町通り
(昭和35年,撮影:大平喜一氏)



▲さはこの湯
(平成7年,撮影:いわき市)



▲三函座
(昭和39年,所蔵:いわき市)



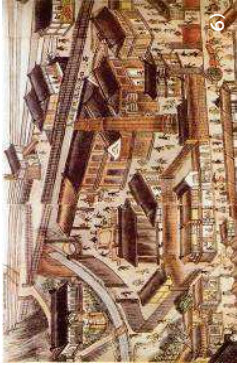
▲鶴のあし湯広場

▶常磐炭田の歴史まとめ

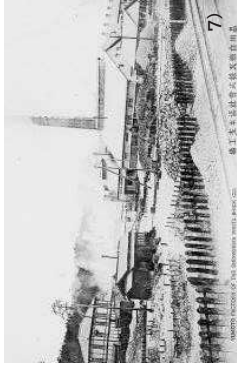
まちの経済を支えた常磐炭田の歴史をまとめました。
常磐炭田の歴史や記憶を後世にも残していきたいでしょう。

▼常磐炭田の歴史年表

年代 (和暦)	事 柄
1857(安政04)年	片寄平蔵が湯長谷藩の許可を得て弥勒沢に開坑
1884(明治17)年	磐城炭礦が創業、小野田炭礦で横坑開削に着手
1906(明治39)年	湯本駅前に品川白煉瓦工場
1921(大正10)年	常磐石炭礦業会が結成
1927(昭和02)年	入山採炭争議が発生、同年、常磐炭鉱(株)内郷炭鉱町田坑で坑内火災が発生
1944(昭和19)年	入山採炭(株)と磐城炭礦(株)が合併し、常磐炭礦(株)が設立
1960(昭和35)年	常磐炭礦が常磐開発(株)を設立
1969(昭和44)年	品川白煉瓦工場移転により街区造成、「一番町商店街」の誕生
1971(昭和46)年	常磐炭礦(株)磐城礦業所が閉山
1976(昭和51)年	常磐炭礦西部が閉山し総撤退完了
1984(昭和59)年	いわき市石炭・化石館が開館
1987(昭和62)年	いわき市が「産炭地域」指定から解除
2004(平成16)年	いわき市において4文化施設で炭鉱・炭田をテーマとした合同企画展を開催、好評を博す
2007(平成19)年	いわきヘリテージ・ツーリズム協議会発足
2010(平成22)年	いわき市石炭・化石館リニューアルオープン 「いわき市石炭・化石館ほる」に改名
2021(令和03)年	常磐炭礦(株)磐城礦業所の閉山



▲絵葉書品川白煉瓦湯本支工場付近
(明治40年頃、斎菊勝之介作、嶋崎剛氏所蔵)



▲品川白煉瓦湯本支工場
(明治44年頃、提供：清光堂支店)



▲入山採炭五坑の坑口周辺の絵はがき
(大正時代)



▲品川白煉瓦工場跡の街区造成
(昭和44年、提供：角田信孝氏)



▲いわき市石炭・化石館ほる



▲常磐炭礦湯本坑第六坑
人車の坑口



▲常磐炭礦西部礦の堅杭槽

品川白煉瓦会社で製造された耐火煉瓦
品川白煉瓦(株)湯本支工場)で多く製造されていた「白煉瓦」



▲品川白煉瓦(写真は大井駅)

赤煉瓦より、白っぽく規格が大きいのが特徴

▶いわき湯本のフラ文化のまとめ

新たな文化として根付いているフラ文化の歴史をまとめました。
年表を見ながら、いわき湯本温泉を支えたフラの文化を思い返してみよう。

▼フラ文化の歴史年表

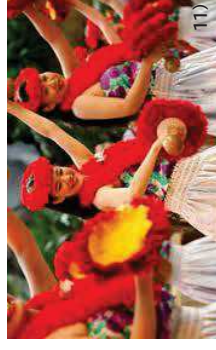
年代(和暦)	事 柄
1963(昭和38)年	企業の存続と地域経済の再生を目指し、「坑内から湧出する温泉の地熱と、豊富な湯量を利用すれば、東北の地でも一年間温暖な空間が創出できる」として、常磐炭礦株式会社による「温泉レジャー施設」計画
1965(昭和40)年	日本初のフラダンス、ポリネシアン民族舞踊の学校『常磐音楽舞踊学院』を設立
1966(昭和41)年	「常磐ハワイアンセンター」の開業、「ポリネシアンジョー」は開業以来続くハワイアンズ最大の呼び物
1990(平成02)年	常磐ハワイアンセンター、「スパリゾートハワイアンズ」に名称変更
2011(平成23)年	東日本大震災からわずか2ヶ月後の2011年5月より、被災者の慰問や復興支援への感謝を込めたスパリゾートハワイアンズ・ダンシングチーム フラガールによる「さずなキャラバン」が始まる、以後国内外125カ所を巡業
2012(平成24)年	スパリゾートハワイアンズ、震災による営業休止を経て、全面再オープン
2015(平成27)年	フラのまち宣言
2016(平成28)年	フラ女将の誕生 フラ女将ポスター・フラ女将カレー等の開発
2017(平成29)年	フラシティiwaki フラのまちフェスティバル・湯めぐりハイビスカスチケット等の開催
2018(平成30)年	フラシティブラザースのスタート



▲常磐音楽舞踊学院の練習風景
(提供: Spa Resort Hawaiians)



▲常磐ハワイアンセンター
(提供: Spa Resort Hawaiians)



▲映画「フラガール」
(提供: Spa Resort Hawaiians)



▲さずなキャラバンの活動風景
(提供: Spa Resort Hawaiians)



▲フラのまちいわき湯本温泉のロゴ



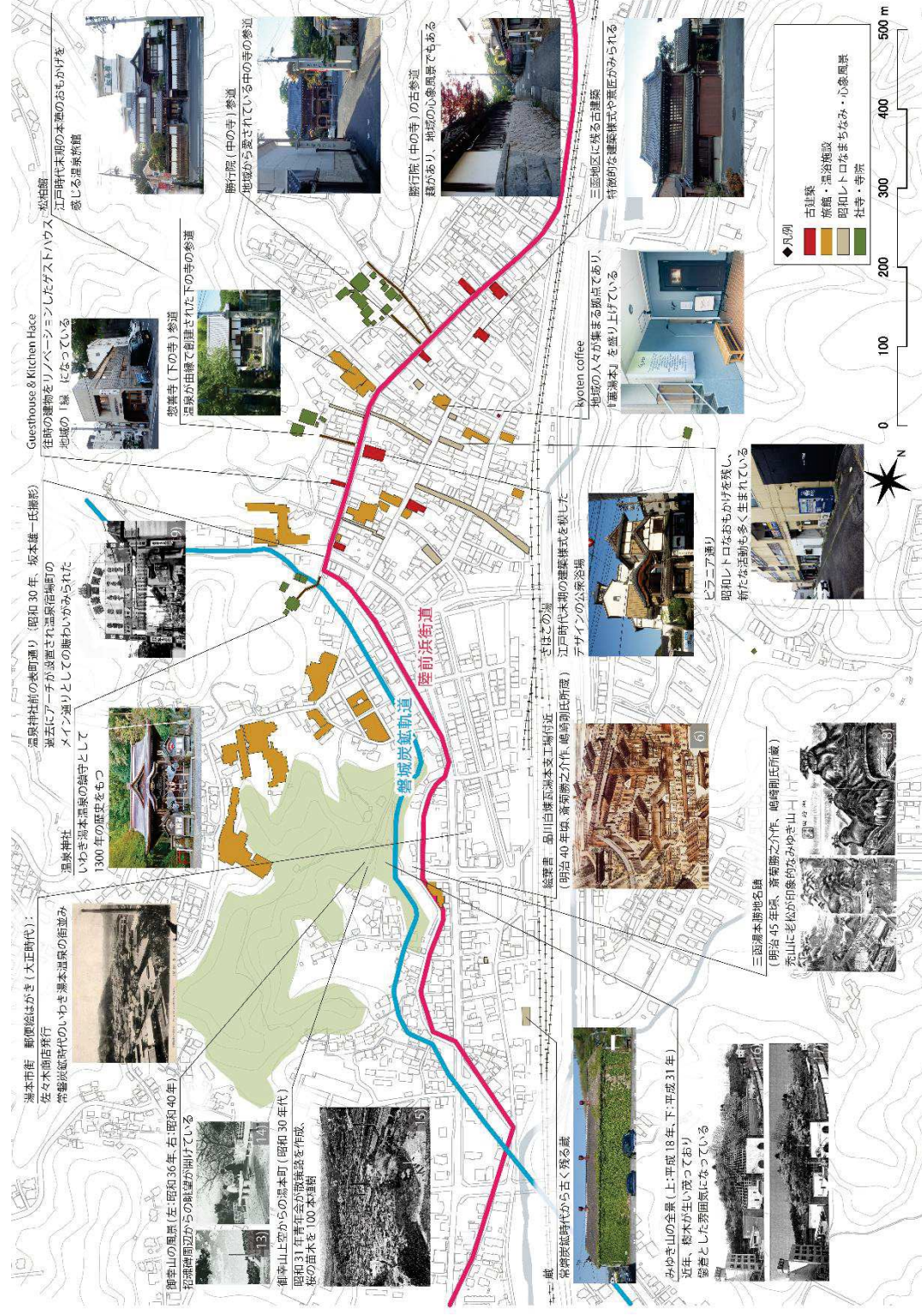
▲フラシティいわきのロゴ



▲フラのまちオンステージの活動風景

▲いわず湯本温泉に残されている歴史のまとめ

現代のまちにも、歴史的な建物や名残、地域の心象風景が残っています。地図をみながらまちを散策し、いわき湯本温泉の貴重な歴史や記憶を辿ってみましょう。

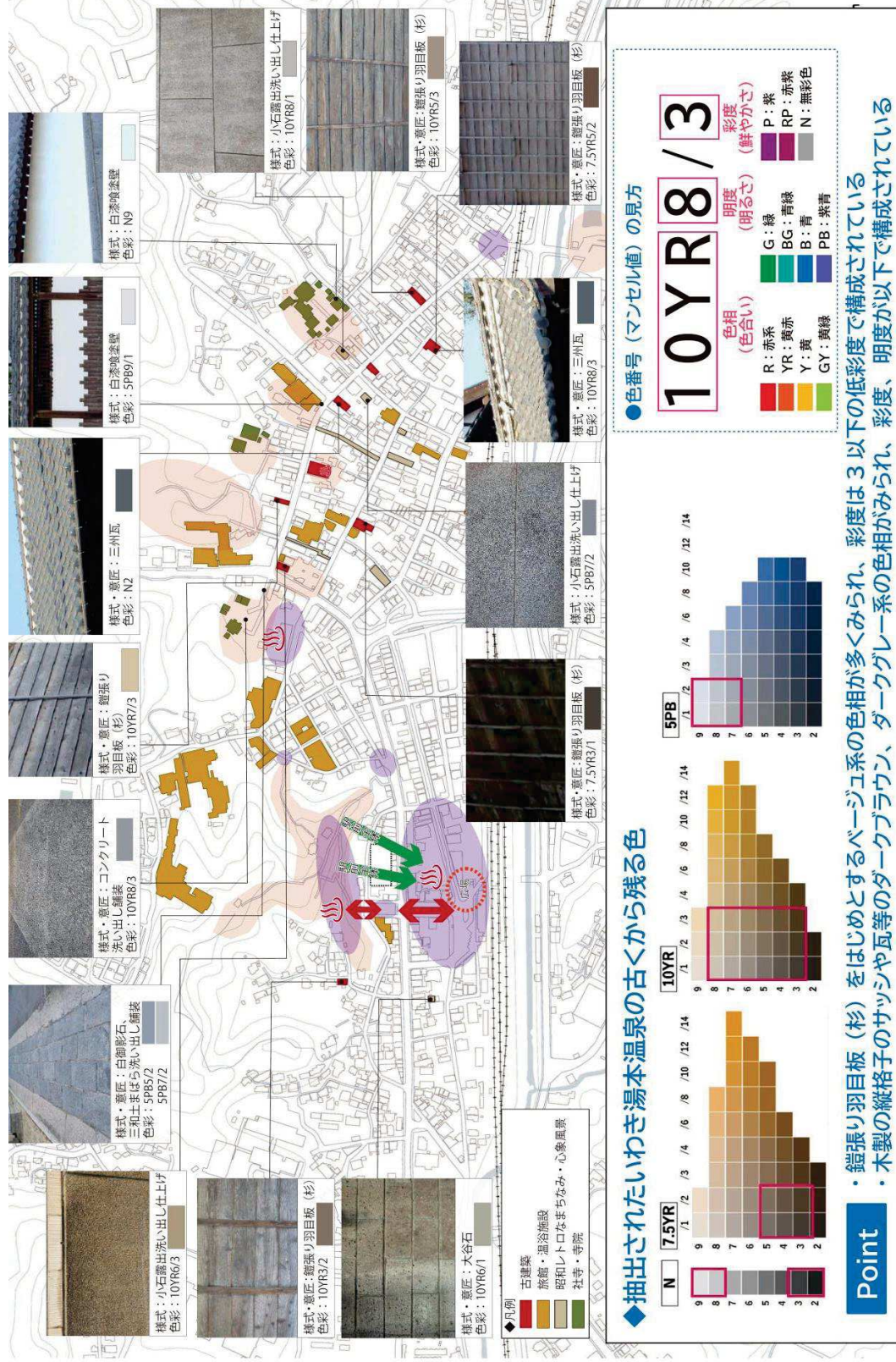


▲いわぎ湯本温泉のまちの歴史

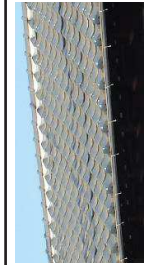
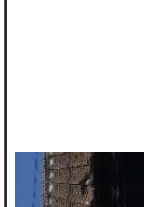
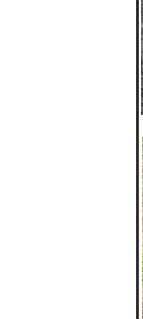
▶いわき湯本温泉の特徴的な建築・施設の様式・意匠まとめ

いわき湯本温泉の歴史的な建築・施設の素材や色彩について調査しました。

次のページをみながら、自分の家がどんな素材や色の建具を使っているか確認してみましょう。

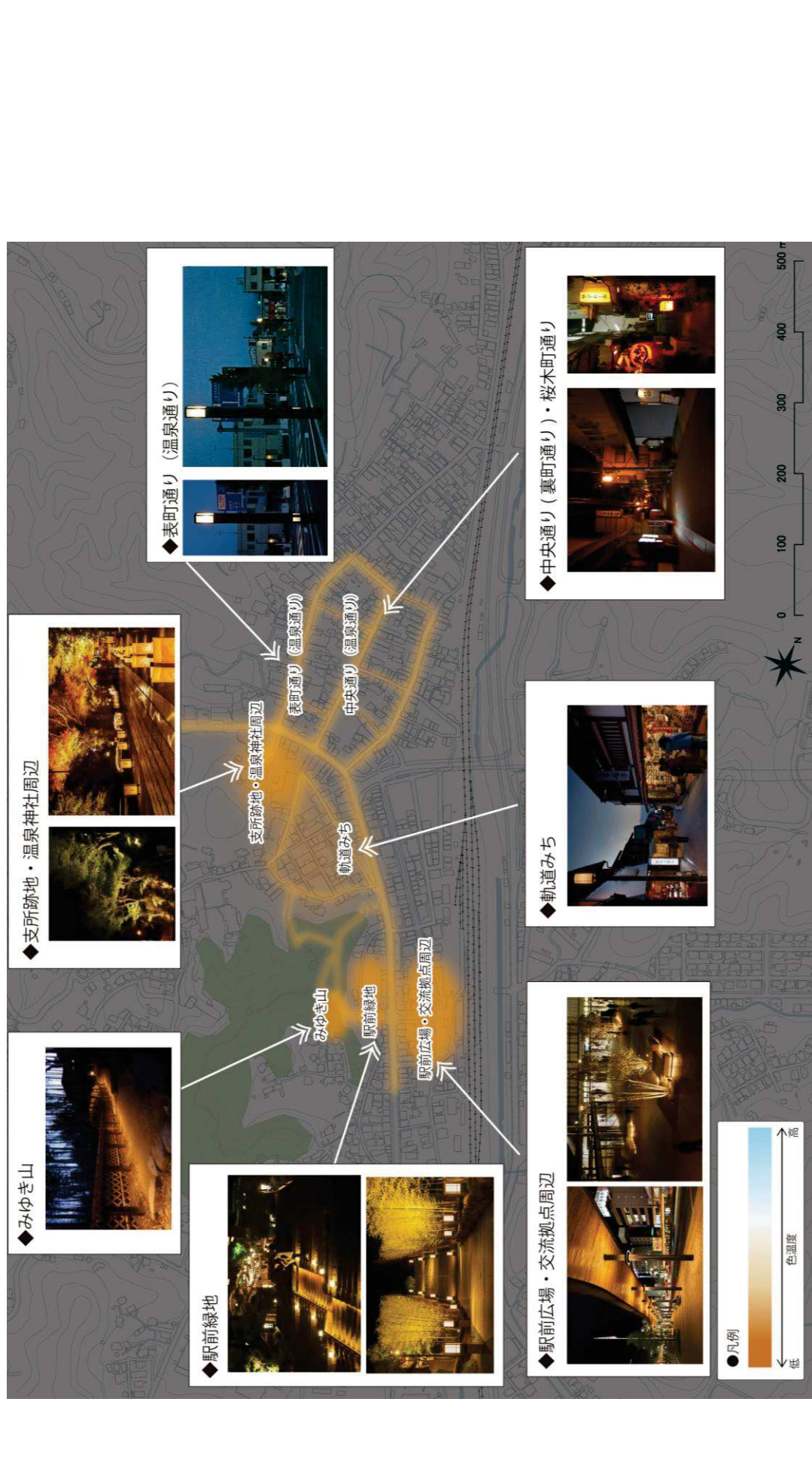


▼特徴的な建築・施設の様式・意匠リスト

NO.	建築・施設の様式・意匠		写真・イメージ
	タイプ	具体の様式・意匠	
1	壁面	杉 鎧張り羽目板	   
2	壁面	小石露出洗い出し仕上げ、 大谷石	   
3	壁面	白漆喰塗壁	   
4	屋根材	瓦	   
5	壁面	白御影石と 三和土まばら 洗い出し舗装	   
6	壁面	コンクリート 洗い出し舗装	   
7	壁面	石積み擁壁	   

▶照明・灯りの考え方

まちなみづくり検討会の際に、地域のみなさんと照明・灯りの考え方や照明灯のデザインの方向性について、意見交換をした際に使用した資料を紹介します。



▲いわき湯本温泉全体の照明・灯りの考え方

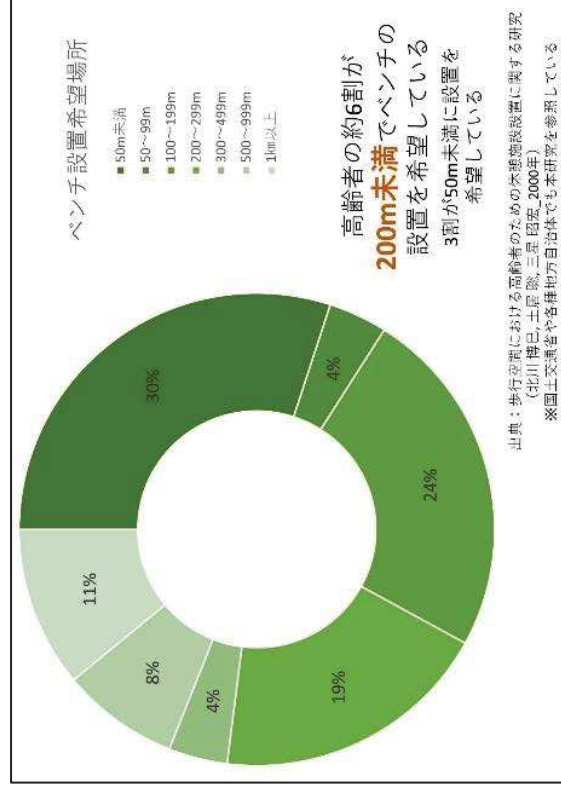


▲照明灯のデザインの分類

▶まちの休憩所の考え方

休憩施設設置の考え方を参考に、休憩所の配置位置を検討しました。

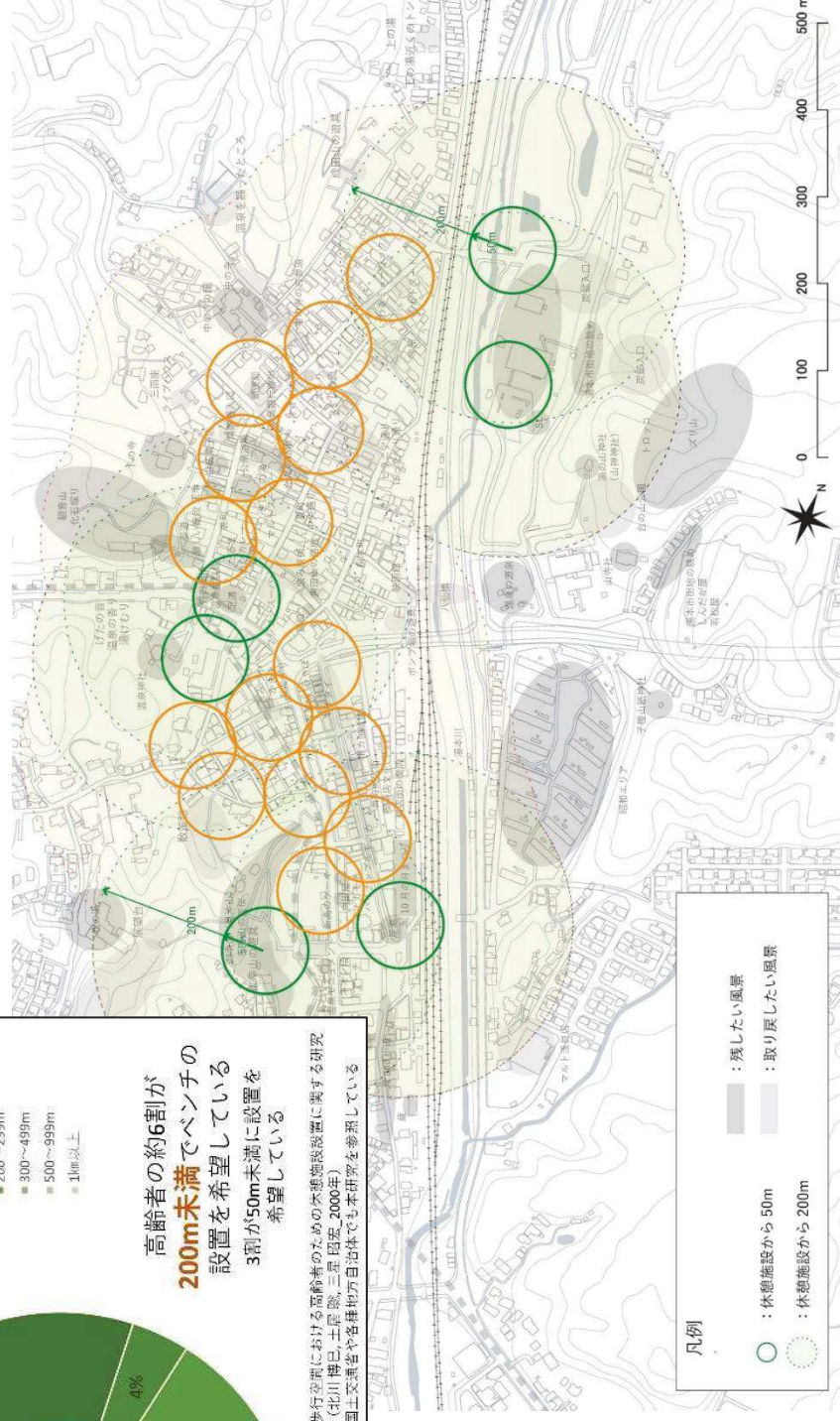
緑の円が既存の休憩施設から50mの円で、点線の円が既存の休憩施設が200mの円で、三函地区の本陣跡付近が範囲外になっているので、



▲休憩施設設置の考え方

この辺りに休憩所を設置すると効果的です。

また、オレンジの円のよりに半径50m以内に小さな休憩所を設置すると、さらに歩行者に優しく、まちの散策を楽しむことができる温泉街になります。



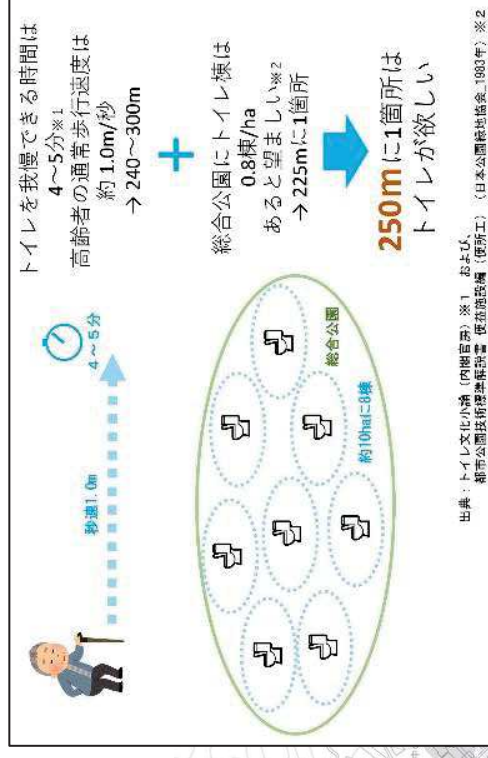
▲歩行空間における休憩機能配置間隔について／休憩機能の配置検討

▶トイレの考え方

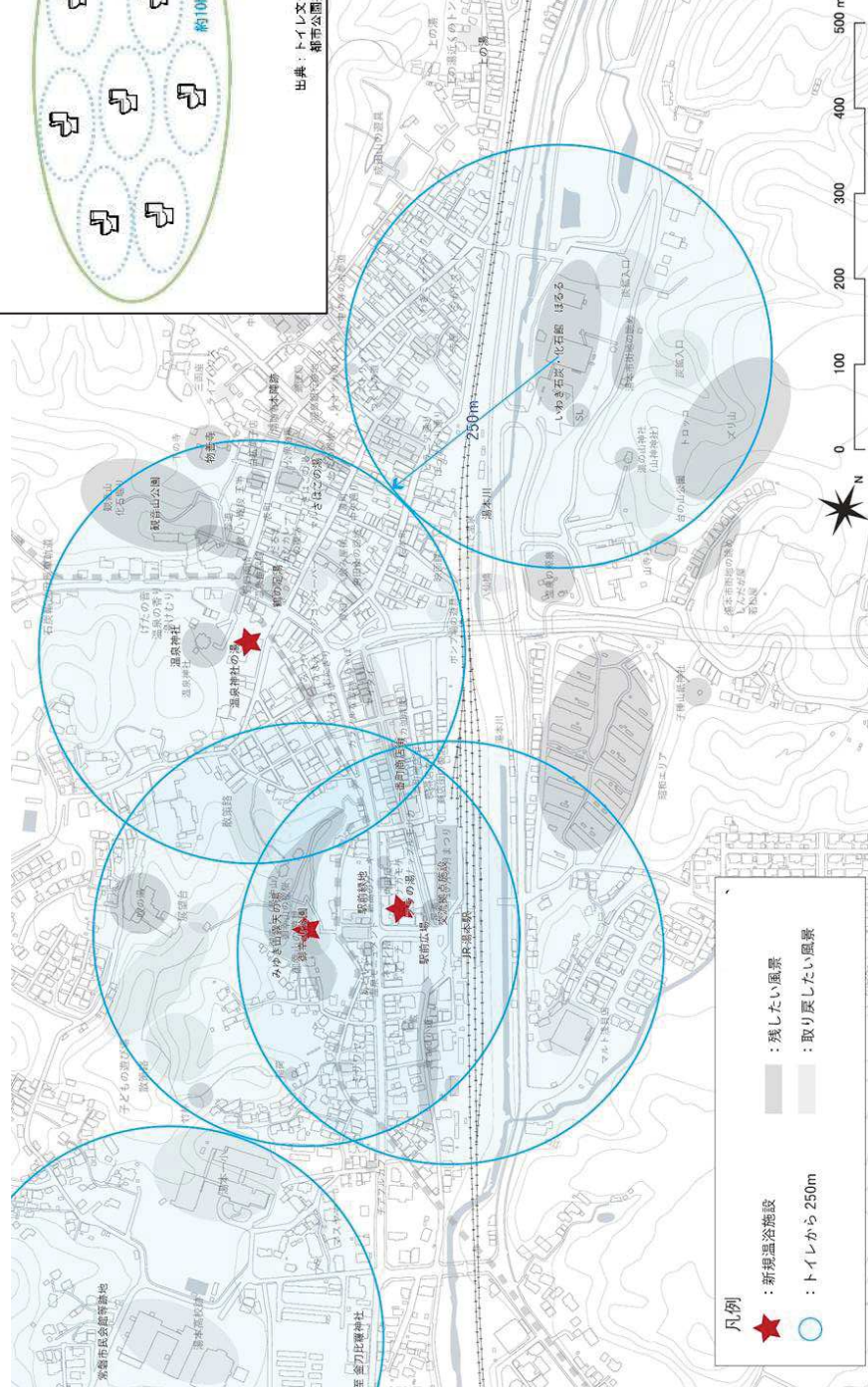
休憩所とあわせて、まちに無料のトイレがあると、さらにまちの散策を楽しむことができます。おもてなしにもつながります。

トイレの配置の考え方として、250mにトイレが1か所であると、適切です。

現状では、休憩所と同様に、三函地区の本陣跡付近にトイレを設置すると効果的です。また、他の温泉街では、トイレの無料貸出を行っている事例もあります。トイレの無料貸出のおもてなしを試みながら、歩行者に優しい温泉街を目指しましょう。



▲トイレの配置の考え方

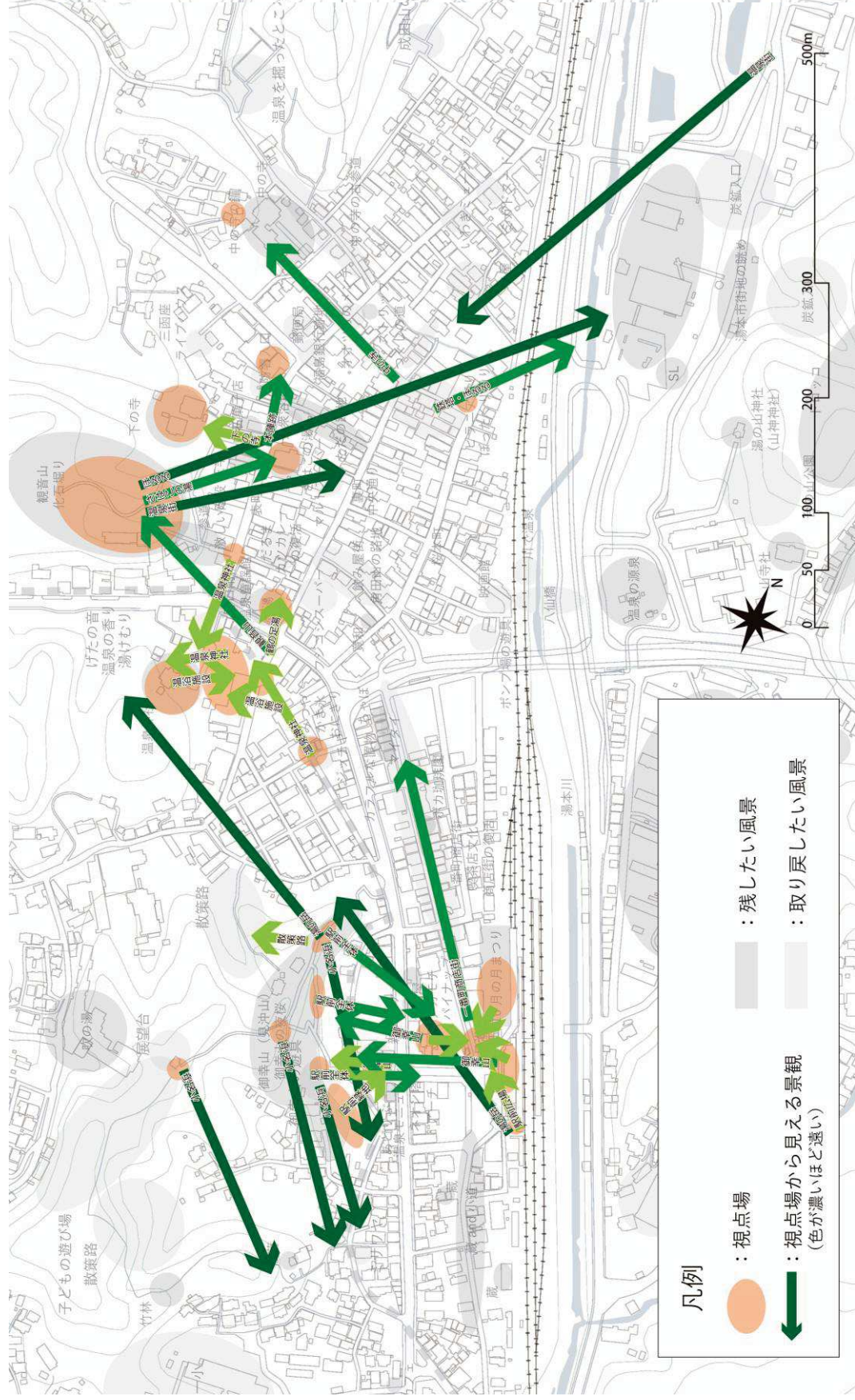


▲まちなかにおけるトイレ機能配置間隔について／トイレの配置検討

▶景観

いわき湯本温泉には、市街地を一望できるビュースポットや、通りからみることができお寺など、まちの散策を楽しむことができる魅景観が点在しています。

新しく家を建てる時や補修するときに、下図の視点場や見え方に配慮すると、魅力的な景観をさらに引き立てることができます。



▲いわき湯本温泉の視点場とそこからみえる風景

▶用語解説

本サポートブックに記載されてある用語の解説集です。

- ◆注1 そぞろ歩き
習慣性や目的感が低く、気の向くままにぶらぶらと歩き回ること、漫ろ歩き
- ◆注2 リノベーション
既存の建物に改修を加えることで価値を高めること、修復・刷新
- ◆注3 開口部
建物の壁や天井、床、屋根の一部が開放された部分、主に玄関、勝手口、窓を指す
- ◆注4 下屋庇(げやひさし)
母屋から張り出して作られた片流れの屋根
- ◆注5 看板建築
関東大震災の復興時に流行した住居併用型木造商店建築で、建物前面にまるで看板をつけたかのような建築のこと、かつては「街路建築」と呼ばれ全国へと広がる、装飾は西洋建築を真似つつ大工や家主らの好みが見られるのが特徴
- ◆注6 タウンマネジメント
地域の良好な環境や価値を高めるための、住民・事業主・地権者等による管理手法のひとつ、まちの情報発信・運営の仕組みづくり・ブランディング・イベント企画・コミュニケーション形成・美観推進・治安維持等の運営活動事業
- ◆注7 コンシェルジュ
来訪者の様々な相談や要望に臨機応変に対応し、顧客満足度を高めるサービスのこと、フランス語で「アパートの管理人」を意味する「Concierge」が由来
- ◆注8 鎧張り羽目板(よろいばりはめいた)
鎧張りは武士の鎧のように一枚ずつ板を重ねる張り方で部分交換が容易、羽目板は壁等に連続して張る板のことで昔から多くの日本家で用いられている
- ◆注9 入母屋造り(いりもやづくり)
山形の屋根の下に四方への勾配屋根を組み合わせた、建築様式の一つ

- ◆注10 白漆喰(しろしっくい)
消石灰を主原料とした白色の塗り壁材、日本では平安時代初期からの歴史性があるといわれており、防火性や耐久性の高さから広く奨励された
- ◆注11 トタン
亜鉛を鋼板にメッキしたもの、瓦より安価で施工しやすく特に戦後流行した
- ◆注12 エージング
石や木などの天然素材におけるポジティブな劣化現象のことを示す、時間の経過によって味わい深い風合いを持った効果が得られること
- ◆注13 アースカラー
土や砂、植物などの自然物を連想させる、ベージュ、ブラウン、グリーン等の色合いが代表的
- ◆注14 内照式看板(ないしょうしきかんばん)
看板の内側に電球が設置された電飾看板
- ◆注15 心象風景
過去の体験等をもとに、現在でも印象深く思い出す風景のこと

写真・資料の提供

本編

- | | |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 1) 写真提供: 金沢湯桶温泉かなや | 11) 写真提供: Spa Resort Hawaiians |
| 2) 写真提供: 川越救急クリニック | 12) 写真提供: Spa Resort Hawaiians |
| 3) 引用: 三箇温泉由来記 | 13) 引用: '65常磐市市勢要覧(発行: 常磐市) |
| 4) 資料提供: 嶋崎剛氏 | 14) 引用: '65常磐市市勢要覧(発行: 常磐市) |
| 5) 写真提供: 大平喜一氏 | 15) 引用: '65常磐市市勢要覧(発行: 常磐市) |
| 6) 資料提供: 嶋崎剛氏 | 16) 引用: 未来へつなぐ「いわき」ものがたり(発行: いわき市) |
| 7) 資料提供: 清光堂支店 | 17) 引用: 未来へつなぐ「いわき」ものがたり(発行: いわき市) |
| 8) 写真提供: 角田信孝氏 | 18) 資料提供: 嶋崎剛氏 |
| 9) 写真提供: Spa Resort Hawaiians | 19) 写真提供: 坂本雄一氏 |
| 10) 写真提供: Spa Resort Hawaiians | |

表紙

写真提供: 一般社団法人いわき市観光まちづくりビューロー

新・いわき湯本温泉
まちなみづくりサポートブック 2023年9月
【素案】

20●●年●●月●●日 初版第1刷発行

制作

いわき市

この冊子についてのお問い合わせ

【行政の窓口】

いわき市都市建設部都市計画課

住所いわき市平字梅本21

電話|0246-22-7512[景観係]

0246-22-7513[都市再生係]

メールアドレス|toshikeikaku@city.iwaki.lg.jp